授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミナールⅠ	担当教員名	合澤　浩之

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	２年	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

１年次で学んだ経営学の基礎知識をベースに、経営戦略論に関する講義とグループでの事例研究を主体としながら生きた経営戦略を学ぶ。

授業の目的・到達目標

経営戦略、競争戦略の考え方の基本を理解する。
グループワークを通じて、自主研究のプロセスを学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	ゼミナールの目的、進め方に関するガイダンス	
２	経営戦略とは	事業ドメインの考え方	
３	同上	成長戦略の考え方	
４	外部環境分析	５つの競争要因分析	
５	内部環境分析	SWOT 分析	
６	競争優位の戦略	３つの基本戦略	
７	同上	競争地位別戦略	
８	グループワーク①	グループワークの進め方について	
９	グループワーク②	研究テーマの検討・決定	
１０	グループワーク③	グループ討議	
１１	グループワーク④	グループ討議	
１２	グループワーク⑤	グループ討議	
１３	グループワーク⑥	グループ発表準備	
１４	グループ発表①	グループ発表、討議、講評	
１５	グループ発表②	グループ発表、討議、講評	

履修上の注意・関連科目等

１年次に経営学の基礎科目を学んでいる学生を対象とする。
毎回の授業で積極的に発言するように心がけること。
私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと（出席とは認めない）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　グループの研究成果をPPTにまとめ１４週もしくは１５週に発表. □無し	５０　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況、授業態度（積極的なグループ議論参加）を評価する。	５０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕講義にて適宜指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	講義中に指示する

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミⅠ	担当教員名	池田玲子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	２年	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

この授業は経営学を基にしたキャリアデザインのゼミである。企業で継続的に必要とされ、働いていく人財の育成を目的としている。これは働く個人にとっては、企業や組織と良好な関係を構築し、幸福な職業人生をめざすことである。

授業の目的・到達目標

・ ラポールの形成と「聞くこと」について、自分のスタイルを構築する。
・ 現代日本社会の「貧困」について考える。
・ 自身の「モチベーション」について観察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	受講上の注意とアイスブレイク	
２	輪読①	「カネ」がないって、そういう事	下記テキスト①
３	輪読②	「カネ」を稼ぐ＝「自由」を手にいれる事	
４	輪読③	「カネ」を失うことで見えてくるもの	
５	輪読④	「カネ」の視点と自分探し	
６	輪読⑤	「カネ」の向こう側へ	
７	輪読１	ガネーシャの課題１・２・３	下記テキスト２
８	輪読２	ガネーシャの課題４・５・６	
９	輪読３	ガネーシャの課題６・７・８	
１０	輪読４	ガネーシャの課題９・10・11	
１１	輪読５	ガネーシャの課題 12・13・14	
１２	輪読６	ガネーシャの課題 15・16・17	
１３	輪読７	ガネーシャの課題 18・19・20・21	
１４	輪読８	ガネーシャの課題 22・23・24・25	
１５	輪読９	ガネーシャの課題 26・27・28・29	

履修上の注意・関連科目等

課題をやって出席すること。ゼミは学生相互の双方向性の授業なので、「聞くこと」「発言すること」の双方を評価の対象とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	有り 無し	%
レポート	有り 無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	課題の実行と議論への参加度	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕①『この世でいちばん大切な「カネ」の話』　西原理恵子
　　２『夢をかなえるゾウ』　　水野敬也
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
１号館　３階　　内線	

作成年度：２０１１

授業科目コード	Ｃ１－１／２	授業科目名	専門ゼミナールⅠ・Ⅱ	担当教員名	蔡　明哲

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2年	前期 後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日中経済関連の基本知識とその研究のための経済・経営学の基礎理論をしっかり勉強する。

授業の目的・到達目標

日中経済関係において、現在ビジネスチャンスは増える一方、大きなリスクも抱えている。いかに日中ビジネスを成功に導くか、そのための基本知識とスキルを学ぶ。専門ゼミⅠでは、経済や経営学の基礎をしっかり勉強し、専門ゼミⅡでは、日中ビジネスに必要不可欠な基本知識を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	ゼミⅠ・Ⅱの履修ガイダンス	
2	経済の仕組み	経済を動かす６つのファクター,	テキスト PP20～PP38
3	景気の仕組み	景気循環、市場原理	PP39～PP60
4	〃	景気と金利・物価・為替のメカニズム	PP65～PP75
5	金利の仕組み	金利とは、金利の動き	PP76～PP92
6	〃	金利と景気・金利と物価のメカニズム	PP96～PP139
7	物価の仕組み	物価と金利・物価と為替のメカニズム	PP146～PP171
8	貿易と為替の仕組み	国際収支、貿易摩擦	PP96～PP139
9	〃	為替市場、円高と円安	PP197～PP223
１０	経済政策の仕組み	財政政策と金融政策	PP228～PP251
１１	日中経済関連	日中企業とグローバリゼーション	プリント配布
１２	〃	日系企業の中国ビジネスの実態	プリント配布
１３		日本の対中直接投資	プリント配布
１４	〃	日中貿易関係	プリント配布
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

○経済・経営学に関連する授業を履修すること。
○テキストを必ず用意すること。
○日中ビジネス、日中経済関連ニュースに関心を持つこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	☑有り □無し	50%
その他（出席状況等）	出席および授業態度を重視する。	50%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
角川総一『経済の動きが手にとるように見えてくる』中経出版、2006 年 10 月

〔参考書・その他〕
伊藤元重『マクロ経済学』日本評論社、2006 年 2 月
野本茂・方蘇春・賈雪梅『日中企業交流の内実とその深層』サンライズ出版、2008 年 3 月

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミナールⅠ	担当教員名	燈田（とうだ）順子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2年	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

学生諸君の日常は、企業からの商品やサービスを購入する消費サイドです。「専門ゼミナール」は、4セメスターを通じ、需要サイドつまり提供側の企業活動である「経営の視点」を中心に学びます。専門ゼミⅠでは、経営の基礎になじむことを目的にします。「やさしい経営学」日経ビジネス文庫をテキストとしつつ、ホットなニュースを当てはめながら図解や解説を加えていきます。。

授業の目的・到達目標

基本は、具体的な企業活動とテキストを結びつけながら理解を深めてゆく。適宜、簡単な課題を出すので個人あるいはグループで情報収集、整理、まとめ、発表を行い、ゼミ生間で議論を繰り返してゆなかで、生き残りをかけて「知恵を絞る」企業の実態を他人事ではなく自分の中で消化するよう努力してもらいたい。授業以外の日常で経営の目を養うためにビジネス誌やニュースなどに関心をもち分析してみる習慣をつけ、ゼミでの話題として提供することを奨励したい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	科目ガイダンス	当該科目についてのガイダンスを行う	
2	企業活動の構造	企業活動の概略（顧客・市場・組織）を説明する	
3	経営学とは（1）	経営学とはどんな学問か、その学び方について理解する	
4	（2）	個人と組織の関係および個人のモチベーションについて理解する	
5	（3）	階層や分業、ネットワーク組織について学ぶ	
6	（4）	企業と環境の関連性について学ぶ	
7	（5）	企業の行動様式・ビジョン・価値観について学ぶ	
8	経営戦略について	戦略が企業の基本設計図であることを理解する	
9		競争・差別化・個性・見えざる資産の蓄積について知る	
１０	戦略の具体例	企業の実力を世界一のものづくりトヨタから分析する	
１１		事業の再編をキャノンから分析する	
１２		ユニクロ・セブンイレブンから分析する	
１３	企業の過去・現在・未来	実践にもっとも近いレベルで理論化することの意味を知る	
１４	経営での成功	戦略的に考えるということを再考する	
１５	まとめ	まとめと全体理解	

履修上の注意・関連科目等

① 一方的に聴くだけの講義スタイルは基本的にとらない。
② テーマを決めリサーチ発表やグループワーク、プレゼンテーションなどの自発性を中心に授業を進めるので積極的に発言し参加できる学生に限る。
③ 事例研究はグループワークとして PPT を使い発表する。
④ 質問はいつでもメールを送付してください。
在室中は研究室の4台のパソコンの自由に利用できます。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	■有り　プレゼンテーションとしてまとめ発表する（数回）	70%
その他（出席状況等）	① 1/3 以上欠席した場合は、自動的に試験無資格者とする。また受講態度の芳しくない者も同様の扱いとする。 試験無資格を除き、授業の積極性および成果を重視する。	30%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
専門ゼミⅠ：「経営を見る眼」伊丹敬之著　東洋経済　￥1.600
〔参考書・その他〕
「やさしい経営学」日経ビジネス文庫（日本経済出版社＝編）￥648
WBS の TV 番組を連続して観ること。
その都度推薦する書物・日経ビジネスなどの雑誌を通じビジネスになじむこと。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミナールⅠ	担当教員名	森本和義

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	２年	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

本講義では、実際にビジネス会計検定試験３級の過去問題を取り上げ、その解き方や注意点について具体的に講義する。

授業の目的・到達目標

貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を理解できる能力（会計リテラシー）を高めることを、本講義の目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義の概要・進め方	講義の概要、目的、進め方などを説明。	
２	貸借対照表①	貸借対照表を講義。	３級過去問題集
３	貸借対照表②	過去の貸借対照表の問題を解説。	３級過去問題集
４	貸借対照表③	理解度確認のため過去の問題を解く。	３級過去問題集
５	損益計算書①	損益計算書を講義。	３級過去問題集
６	損益計算書②	過去の損益計算書の問題を解説。	３級過去問題集
７	損益計算書③	理解度確認のため過去の問題を解く。	３級過去問題集
８	キャッシュ・フロー計算書①	キャッシュ・フロー計算書を講義。	３級過去問題集
９	キャッシュ・フロー計算書②	過去の問題を解説。	３級過去問題集
１０	キャッシュ・フロー計算書③	理解度確認のため過去の問題を解く。	３級過去問題集
１１	財務諸表分析①	財務諸表分析を講義。	３級過去問題集
１２	財務諸表分析②	過去の財務諸表分析の問題を解説。	３級過去問題集
１３	財務諸表分析③	理解度確認のため過去の問題を解く。	３級過去問題集
１４	財務諸表分析④	理解度確認のため過去の問題を解く。	３級過去問題集
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

本講義では、とにかく積極的にビジネス会計検定３級の過去問題に取り組むことが要求される。本講義を履修する場合には、「企業会計Ⅰ」の講義は、必ず登録および履修しておくこと。テキストは購入してください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	５０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験	実施しない。	％
その他（出席状況等）	毎回､出欠の確認を行う｡頻繁に行う小テストと出席状況から成績評価を行う。	５０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式過去問題集３級』中央経済社、1,680 円。

〔参考書・その他〕

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト３級』中央経済社、1,500 円。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミナールⅠ	担当教員名	李　貞順

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	２年	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲを通じて、「日・中・韓の３カ国の観光交流の増進」をテーマに、現在観光産業が直面している課題を的確に把握し解明していくための考察を行う。専門ゼミⅠでは、人的サービスによって付加価値が創出される観光産業において、顧客を喜ばせる商品やサービスをどのように生産・提供すればよいのかを考えるために、観光産業の現状とサービスに関する基礎理論を学習する。

授業の目的・到達目標

「観光産業においてサービスとはなにか」について知識を深める。
また、学習した内容や自分の考えを他人に正確に伝えることができる力を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	進め方について	
２	個人発表	テキストの輪読	発表者が作成したレジュメなど
３			
４			
５			
６			
７			
８			
９			
１０			
１１	旅行業について	グループでの発表と討議	
１２	宿泊業について	グループでの発表と討議	
１３	航空産業について	グループでの発表と討議	
１４	その他の観光産業について	グループでの発表と討議	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

ゼミナール活動を成功させるのは、学生諸君自身である。一人ひとりの学生のみなさんが積極的にゼミに参加し、活躍されることを希望する。
また、セミナールは、集団づくり、仲間づくりの場でもある。各人の主体的な努力と集団的な討議によって、学生間の結びつきを深めていくことをめざす。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席、授業参加態度、発表内容を重視する	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕必要に応じて指示する。

〔参考書・その他〕授業にて適宜指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミナールⅠ	担当教員名	数井　敏男

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	２年	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

基礎ゼミⅠ、Ⅱおよび一年間の授業で習得した基礎的学力、ゼミ合宿での体験等で学んだことをベースに観光に関する基礎を学習します。また旅行業務取扱管理者試験にも対応していきます。

授業の目的・到達目標

観光に関する基礎を固め､今後のゼミナールにおける観光ビジネスの学習をしっかり行えるようにする。また将来の進路考えられるようにする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	はじめに	ゼミの勧め方、活動内容、自己紹介、抱負等	
２	観光の基礎を学ぶ	観光学基礎を読む	適宜関係資料配布
３	〃	観光学基礎を読む	
４	〃	観光学基礎を読む	
５	〃	観光学基礎を読む	
６	〃	観光学基礎を読む	
７	学外研修	学外研修の事前学習	
８	〃	日帰り学外研修（観光関連企業、施設）	
９	〃	学外研修の事後学習	
１０	〃	学外研修の事前学習	
１１	〃	日帰り学外研修（観光関連企業、施設）	
１２	〃	学外研修の事後学習	
１３	観光の基礎の理解	学んだことの復習	
１４	観光の基礎の理解	学んだことの復習	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・旅行会社等観光ビジネスに興味がある人は是非履修してください。
・遅刻欠席は基本的に認めない。(無断欠席は厳禁)
・チームワーク良く積極的にゼミ活動に参加すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験	あり	５０　%
その他（出席状況等）	出席と授業態度で総合的に判断する。	５０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕観光学基礎、観光読本等

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミナールⅠ	担当教員名	朝西知徳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2年	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「ためになるスポーツ心理学」

人気マンガ『スラムダンク』を通して、「勝利するための考え方」「学ぶべき考え方」を学習させる。

授業の目的・到達目標

ものごとを相対的な価値観ではなく、絶対的な価値観によって判断することのできる、スポーツ選手としての正しい態度を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の進め方について	テキスト全般
2	正しい根性の使い方	セルフイメージについて	テキスト pp6～pp20
3	目標の設定	アファメーションについて	テキスト pp21～pp32
4	今するべきこと	心の習慣について	テキスト pp33～pp47
5	良いところ	鏡の法則について	テキスト pp48～pp60
6	反省と確認	全力を尽くすことの意味について	テキスト pp61～pp76
7	情熱・チームワーク	チームの理念について	テキスト pp77～pp89
8	怒りのコントロール	wrong と different の違いについて	テキスト pp90～pp104
9	あきらめ・不安	心のコントロールについて	テキスト pp105～pp116
１０	感動を与えることの意味	応援の大切さについて	テキスト pp117～pp128
１１	休養とプラス思考	心づくりのサイクルについて	テキスト pp129～pp140
１２	波(流れ)の感じ方	間をとることの重要性について	テキスト pp141～pp152
１３	結果のとらえ方	敗戦の意味について	テキスト pp153～pp165
１４	感謝すること	あいさつの意味について	テキスト pp166～pp177
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	テキスト pp178～pp181

履修上の注意・関連科目等

授業のルールを守らない場合(遅刻、居眠り、携帯電話の使用、私語、飲食)には厳しい指導を行う。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	0　%
レポート	□有り ■無し	0　%
試　　験	授業内容の確認	50　%
その他（出席状況等）	出席状況と授業に対する熱意	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

辻秀一『スラムダンク勝利学』集英社(2000)

〔参考書・その他〕

朝西知徳『甲子園に至るまでの心の研究』新風舎(2002)

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：２０１１

授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミナールⅠ	担当教員名	棚山　研

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2 年	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「文化としてのスポーツ、スポーツの歴史、スポーツと社会といった内容について学び、考え、語る」

次年度にわたる専門ゼミナールの開講方針として、上記のようにスポーツに関する幅広い学びをテーマにするが、2 年生前期では、まず自分のスポーツ経験を客観的に捉える作業を行いたい。

また、必要に応じてスポーツ文化の幅広さを知ってもらうための機会を設定する。

授業の目的・到達目標

具体的には、テキストを読み進めるなかでディスカッションを行い、自分のスポーツ経験を幅広い社会的文化的文脈に結びつけて理解するようにする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業ガイダンス	日程、授業の説明など	
2	個別面談①	前期の目標など	
3	個別面談②		
4	テキストのこれまでの解説	授業の流れとしては、 テキスト内容発表→感想・疑問点の討論→コメントで進める。 なお、適宜スポーツに関するビデオを挟み込みたい。	テキスト
5	夢を大きく持ちつつも、現実を冷静に見よ		
6	勝利の代償として失われていくもの		
7	脳まで筋肉になるスポーツ漬けの生活		
8	少年スポーツがゲーム脳化を加速させる？		
9	少年スポーツは社会性を育むのか？		
１０	いじめと自信力とスポーツ		
１１	スポーツのプレーを通じて自分を確立する		
１２	頭脳を刺激する知的ゲームとしてのスポーツ		
１３	スポーツでの自己実現を達成する		
１４	（４～１３回の合間に１回ビデオはさむ）		
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキスト（下記参照）を必ず購入すること。

出席や評価に関する詳細も下記をよく読むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
定期試験		50%
その他（出席状況等）	全体の 2/3 の出席回数と感想文の提出を単位認定の最低条件とする。その上で出席 1 回 3 点(遅刻は 1 点)、50 点を学期末試験、5 点を調整点で採点する。	50%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

永井洋一『スポーツは「良い子」を育てるか』NHK 生活人新書

※昨年、棚山の基礎ゼミと同じテキストなので、購入済みの者は買わなくて良い。

〔参考書・その他〕

適宜指示する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

授業科目コード	Ｃ１－１	授業科目名	専門ゼミナールⅠ	担当教員名	内田　宮子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2 年	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

英語の総合的な活用能力の向上と、国際文化理解。

授業の目的・到達目標

英語の活用能力を高める。
国際文化について学び、視野を広げる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション		
2	Reading Skill ①	Scanning / 発表①	
3	②	Understanding Main Ideas / 発表②	
4	③	Recognizing Purpose / 発表③	
5	④	Skimming / 発表④	
6	⑤	Reading for Deatails / 発表⑤	
7	⑥	Making Inferences / 発表⑥	
8	⑦	Understanding the Order of Events / 発表⑦	
9	学外研修		
１０	Reading Skill ⑧	Comparing and Contrasting / 発表⑧	
１１	⑨	Making and Checking Predictions / 発表⑨	
１２	⑩	Understanding Cause and Effect / 発表⑩	
１３	⑪	Locating Main Ideas in Paragraphs / 発表⑪	
１４	プレゼンテーション	今までの発表内容を発展させて英語で発表する	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

前期は英語のリーディング力を伸ばすことに重点を置きます。と同時に、各自の興味のある事柄（国際文化理解に関連した）を雑誌・英字新聞などから選び、それについて発表をしてもらいます。授業はできるだけ英語を使用して行います。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	１０　%
レポート	□有り □無し	%
試　　験		４０　%
その他（出席状況等）	出席・課題提出・発表・レポート	５０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕*Elementary Skills for Reading*　Neil J. Anderson　KAWAMATA Masayuki
SEIBIDO
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	合澤　浩之

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2年	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

特定の企業の戦略に関する個人の自主研究を主体としながら生きた経営戦略を学ぶ。

授業の目的・到達目標

自分が研究したい企業の戦略を自らの視点で分析・考察し、発表できること。
個人での自主研究のプロセスを学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、進め方に関するガイダンス	
2	事例研究（個人）	研究テーマ、研究計画の策定	
3		情報収集と分析	
4		同上	
5		同上	
6		同上	
7		同上	
8		中間進捗報告会とフィードバック	
9		新たな情報収集と分析	
１０		同上	
１１		同上	
１２		同上	
１３		各自の研究成果のまとめ	
１４	成果発表	最終成果発表会	
１５	成果発表	最終成果発表会と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

毎回の授業で積極的に発言するように心がけること。
各自の研究の進捗状況に応じて随時アドバイスを行う。
私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと（出席とは認めない）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　個人の研究成果をPPTにまとめ１４週もしくは１５週に発表。 □無し	５０　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況、授業態度（積極的なクラス議論参加）を評価する。	５０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕講義にて適宜指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	講義中に指示する

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	池田玲子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2年	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

この授業は経営学を基とするキャリアデザインのゼミである。エンプロイヤビリティ（組織で働く力）の育成と同時に、働く個人と企業との良好な関係構築を考察したい。
ビデオ教材を用いたケーススタディを行う。

授業の目的・到達目標

・ コミュニケーションの礎としてのラポールの形成と「聞く力」を自分のスタイルで構築する。
・ 接客業におけるチームワークとリーダーシップについて考察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	ゼミのすすめ方と、評価方法	
2	王様のレストラン１	職務上の不満とダメな組織	
3	王様のレストラン２	職務上の学習と挑戦	
4	王様のレストラン３	財務とリストラクチャリングの意義	
5	王様のレストラン４	成長とメンター	
6	王様のレストラン５	イノベーションとチームワーク	
7	王様のレストラン６	リーダーシップとフォロワーシップ	
8	王様のレストラン７	アマチュアとプロフェッショナル	
9	王様のレストラン８	キャリアデザインとキャリアアンカー	
１０	王様のレストラン９	学習性無力感	
１１	王様のレストラン 10	キャリアプラトーとキャリアデザイン	
１２	王様のレストラン 11	モチベーションとリーダーシップ	
１３	解説１	フローティングリーダーシップ	
１４	解説２	学習理論とモチベーション理論	
１５	解説３	個人の成長と組織	

履修上の注意・関連科目等

・ビデオ教材を用いたケースとその議論が演習の中心となる。従って、欠席分の自習や補習ができないので、必ず出席をすること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	有り □無し	%
レポート	□有り 無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	毎回、課題プリントを配布する。これに基づく議論への貢献度合いによって評価する。	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
１号館　２階　　内線	

作成年度：２０１１

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	燈田（とうだ）順子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2 年	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

専門ゼミⅠで学んだ、経営の基礎を基本に、実践で本当に役立つことを目的に１年間かけて企業活動の実態を事例研究してゆきます。学生諸君は、個人あるいはグループでテーマを自由に選択し、経営と関連づけながら情報収集・整理・まとめ・発表・ゼミ生間での議論を繰り返し、最後にまとめのプレゼンテーションを実施します。

授業の目的・到達目標

ゼミⅡは、1 年後の最終成果発表に向けての第一歩です。テーマの選択、情報収集の仕方やまとめ方の練習を行いながら、最終テーマを決定していきます。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	事例研究	調査研究の基礎についての解説をする	
2	↓	企業や個別テーマのアイデアフラッシュをする	
3	↓	〃	
4	↓	個別テーマとメンバーの決定をする	
5	↓	テーマおよび進め方について検討する	
6	↓	〃	
7	↓	情報収集している状況について報告する	
8	↓	〃	
9	↓	テーマの再検討と最終テーマの決定を行う	
１０	↓	第１回目の進捗報告と意見交換	
１１	↓	新たな情報収集を再開する	
１２	↓	第２回目の進捗報告と意見交換	
１３	↓	新たな情報収集を再開する	
１４	↓	これまでのまとめをパワーポイントで報告する	
１５	後期への準備	後期の向けての準備・役割分担を確認する	

履修上の注意・関連科目等

⑤　一方的に聴くだけの講義スタイルは基本的にとらない。
⑥　テーマを決めリサーチ発表やグループワーク、プレゼンテーションなどの自発性を中心に授業を進めるので積極的に発言し参加できる学生に限る。
⑦　事例研究はグループワークとして PPT を使い発表する。
⑧　質問はいつでもメールを送付してください。
⑨　在室中は研究室の４台のパソコンの自由に利用できます。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	■有り　プレゼンテーションとしてまとめ発表する（数回） □無し	50%
その他（出席状況等）	①　1/3 以上欠席した場合は、自動的に試験無資格者とする。また受講態度の芳しくない者も同様の扱いとする。 ②　出席および授業の積極性および成果を重視する。	50%

教科書・参考書及び辞典等

〔〔参考書・その他〕
WBS の TV 番組を連続して観ること。
その都度推薦する書物・日経ビジネスなどの雑誌を通じビジネスになじむこと。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	森本和義

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	２年	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

本授業では、ビジネス社会で重要視されている知識の一つである簿記や会計について学ぶ。本授業では、特に財務諸表分析（経営分析）に焦点を定めて、その知識や技能を修得するために学習を進めて行く。

授業の目的・到達目標

本授業では、貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を理解できる能力（会計リテラシー）を高めることを目的とする。とりわけ、修得した財務諸表分析（経営分析）の知識を利用して、実際に会社の経営分析（経営診断）ができる能力を身に付けることを、本授業の到達目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義の概要・進め方	講義の概要、目的、進め方などを説明	
２	経営分析の基礎①	経営分析の目的と考え方	
３	経営分析の基礎②	財務諸表の説明	
４	経営分析の基礎③	経営分析の手法	
５	安全性分析①	流動比率と当座比率	
６	安全性分析②	固定比率と固定長期適合率	
７	安全性分析③	自己資本比率と資本コスト	
８	安全性分析④	資本回転率と資産回転率	
９	収益性分析①	利益率	
１０	収益性分析②	資本利益率	
１１	収益性分析③	損益分岐点分析	
１２	成長性分析①	売上高伸び率	
１３	成長性分析②	利益伸び率	
１４	総合的評価	会社の総合的評価	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキストは購入してください。

関連科目は、「企業会計入門」、「企業会計Ⅰ」、「企業会計Ⅱ」、「企業会計Ⅲ」など。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	５０　%
試　　験	試験は実施しない。	%
その他（出席状況等）	授業への参加度を重視する。毎回、出欠の確認を行う。	５０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

佐藤裕一『日経文庫ビジュアル経営分析の基本』日本経済新聞社、２００８年、1,000 円。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	李　貞順

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2年	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲを通じて、「日・中・韓の３カ国の観光交流の増進」をテーマに、現在観光産業が直面している課題を的確に把握し解明していくための学習を行う。専門ゼミⅡでは、現在の日・中・韓の３カ国における海外旅行の動向をふまえながら、観光交流を促進させる旅行商品のあり方について考える。

授業の目的・到達目標

学びたい個別のテーマを学生自身の手で認識することに心がける。
学習した内容や自分の考えを他人に正確に伝えることができる力を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	進め方について	
2	日・中・韓の観光交流	観光交流の現状	発表者が作成したレジュメなど
3	日本人の海外旅行の動向	海外旅行を取り巻く状況	
4	中国人の海外旅行の動向	海外旅行を取り巻く状況	
5	韓国人の海外旅行の動向	海外旅行を取り巻く状況	
6	旅行商品の分析	日本発中国行き	
7	旅行商品の分析	日本発韓国行き	
8	旅行商品の分析	中国発日本行き	
9	旅行商品の分析	韓国発日本行き	
１０	グループワーク	交流を促進させる旅行商品のあり方を考える	
１１	グループワーク		
１２	グループワーク		
１３	グループ発表		
１４	グループ発表		
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

ゼミナール活動を成功させるのは、学生諸君自身である、一人ひとりの学生のみなさんが積極的にゼミに参加し、活躍されることを希望する。
また、セミナールは、集団づくり、仲間づくりの場でもある。各人の主体的な努力と集団的な討議によって、学生間の結びつきを深めていくことをめざす。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席、授業参加態度、発表内容を重視する	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
使用しない
〔参考書・その他〕
講義にて適宜指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	数井　敏男

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2年	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

・観光ビジネスを学習する。ゼミⅠでは旅行会社のことを企業訪問しながら総合的に考える。
・旅行業務取扱管理者（国家試験）対策の授業も絡めていきます。

授業の目的・到達目標

・旅行会社の営業を中心とした現状を学習し、理解する。
・旅行業務取扱管理者試験合格

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	ゼミで学ぶ事柄の説明及び進め方	
2	旅行会社	旅行業とは	資料、プリント
3	〃	旅行営業（部門別）	
4	〃	旅行営業（販売形態）	
5	旅行会社・国家試験	旅行業営業内容　　国内旅行業務取扱試験	
6	旅行会社・国家試験	旅行業のマーケティング・　〃	
7	旅行会社・国家試験	旅行業と観光政策　〃	
8	学外研修（準備）	学外研修のための事前学習	
9	学外研修	旅行関連企業訪問	
１０	学外研修（復習）	学外研修の振り返り	
１１	学外研修（準備）	学外研修のための事前学習	
１２	学外研修	旅行関連企業訪問	
１３	学外研修（復習）	学外研修の振り返り	
１４	学習総括	学んだことの復習	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・無断欠席は厳禁
・旅行会社等観光系の企業に就職を希望する人を求めます。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	20　%
試　　験	レポート形式の試験を行う	30　%
その他（出席状況等）	出席およびゼミ学習に対する姿勢	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕その都度資料配布

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	朝西知徳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2年	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「役に立つスポーツ心理学」

スポーツ場面において、実力発揮度を 100%に近づけるための、メンタルコントロールのテクニックを学ばせる。

授業の目的・到達目標

心の状態を自身で把握できる感覚を養い、さらには自身の意志によって、戦いに対する理想的な心の状態を作り出す能力を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の進め方について	テキスト pp9～16
2	実力発揮のメカニズム	メンタルマネジメントについて	テキスト pp17～pp22
3	勝つための理由	勝つことの秘訣について	テキスト pp23～pp38
4	プレッシャー	プレッシャーの対処法について	テキスト pp39～pp69
5	リラクゼーション	呼吸法について	テキスト pp70～pp82
6	ポジティブ・セルフトーク	言葉の力について	テキスト pp83～pp88
7	セルフイメージ	自信について	テキスト pp111～pp124
8	目標の設定	アファメーションの効果について	テキスト pp125～pp138
9	集中力	集中状態の脳波について	テキスト pp139～pp155
１０	インナーゲームの成果	バウンス・ヒット法について	テキスト pp156～pp167
１１	ヨーガによる集中力養成法	体操、調気法、制感について	テキスト pp168～pp178
１２	ゾーンとフロー	理想的な心の状態について	テキスト pp179～pp202
１３	集中内観	振り返ることの重要性について	テキスト pp203～pp215
１４	感謝の心	「ありがとう」の大切さについて	テキスト pp216～pp231
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	テキスト pp232～pp234

履修上の注意・関連科目等

授業のルールを守らない場合(遅刻、居眠り、携帯電話の使用、私語、飲食)には厳しい指導を行う。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	0　%
レポート	□有り ■無し	0　%
試　　験	授業内容の確認	50　%
その他（出席状況等）	出席状況と授業に対する熱意	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

白石豊『本番に強くなる』筑摩書房(2010)

〔参考書・その他〕

朝西知徳『甲子園に至るまでの心の研究』新風舎(2002)

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：２０１１

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	棚山　研

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2 年	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「文化としてのスポーツ、スポーツの歴史、スポーツと社会といった内容について学び、考え、語る」

次年度にわたる専門ゼミナールの開講方針として、上記のようにスポーツに関する幅広い学びをテーマにするが、2 年生後期では、スポーツとは何かということについて本質的な理解を求める。

また、必要に応じてスポーツ文化の幅広さを知ってもらうための機会を設定する。

授業の目的・到達目標

具体的には、テキストを読み進めるなかでディスカッションを行い、スポーツとは何かということについて理解するようにする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業ガイダンス	日程、授業の説明など	
2	個別面談①	後期の目標など	
3	個別面談②		
4	「遊び」	授業の流れとしては、 テキスト内容発表→感想・疑問点の討論→コメントで進める。 なお、適宜スポーツに関するビデオを挟み込みたい。	テキスト
5	「アマチュアリズム」		
6	「アメリカのスポーツ」		
7	「応援団」		
8	「オリンピック」		
9	「監督」		
１０	「企業スポーツ」		
１１	「ギャンブル・スポーツ」		
１２	「近代スポーツ」		
１３	「女性のスポーツ」		
１４	（４～１３回の合間に１回ビデオはさむ）		
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキスト（下記参照）を必ず購入すること。

出席や評価に関する詳細も下記をよく読むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
定期試験		50%
その他（出席状況等）	全体の 2/3 の出席回数と感想文の提出を単位認定の最低条件とする。その上で出席 1 回 3 点(遅刻は 1 点)、50 点を学期末試験、5 点を調整点で採点する。	50%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

玉木正之『スポーツとは何か』講談社現代新書

〔参考書・その他〕

適宜指示する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	Ｃ１－２	授業科目名	専門ゼミナールⅡ	担当教員名	内田　宮子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 専門演習分野	必修科目	2 年	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

英語の総合的な活用能力の向上と、国際文化理解。

授業の目的・到達目標

英語の活用能力を高める。
国際文化について学び、視野を広げる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション		
2	Speaking　①	Forming wh-questions　/　発表①	
3	②	Conversation Strategies　/　発表②	
4	③	Personalities etc.　/　発表③	
5	④	Emtions etc.　/　発表④	
6	⑤	Telephone Covsersations etc.　/　発表⑤	
7	⑥	学外研修の準備	
8	⑦	学外研修の準備	
9	学外研修	英語の実践研修	
１０	Speaking　⑧	学外研修の成果発表	
１１	⑨	Suggestions etc.　/　発表⑥	
１２	⑩	プレゼンテーションの準備	
１３	⑪	プレゼンテーションの準備	
１４	プレゼンテーション	今までの発表内容を発展させて英語で発表する	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

後期は英語のスピーキィング力を伸ばすことに重点を置きます。と同時に、各自の興味のある事柄（国際文化理解に関連した）を雑誌・英字新聞などから選び、それについて発表をしてもらいます。授業はできるだけ英語を使用して行います。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	１０　%
レポート	□有り □無し	%
試　　験		４０　%
その他（出席状況等）	出席・課題提出・発表・レポート	５０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
Input-Output　　Mika Yanase Faith L. Green　　NAN'UN-DO
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－１	授業科目名	経営学概論	担当教員名	池田 玲子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目 必修科目	１～４	前期・後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

・経営学とは、「企業」について学ぶ学問である。資本主義社会に生きる私たちは、好むと好まざるにかかわらず、企業と無縁には暮らせない。ならば、「企業」について最低限の知識をえて、「いい関係」を築く必要があるだろう。

授業の目的・到達目標

・ 初めて経営学を学ぶ人を対象とする。
・ 大学生としての社会科学を「学ぶ」際のマナーとスキル（技術）を身につける。
・ 経営学で取り扱う領域を知り、次年以降の前提となる基礎知識を学ぶ

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容	使用教材
１	企業は私たちの生活をいかに支えているか	豊かな生活と企業	テキスト第１章
２	環境の変化と企業経営	日本企業の発展過程	第２章
３	現代の企業社会と経営学を学ぶ意義	君をとりまく企業社会	第３章
４	企業は誰が所有し経営しているのか	巨大株式会社の経営とガバナンス	第４章
５	企業は何をめざして活動しているのか	企業目標の検討	第５章
６	企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるのか	経営資源の特徴と戦略	第６章
７	企業はどのように経営し組織をつくるのか	マネジメントの意味と組織	第７章
８	情報は企業の組織をどのように動かしているのか	意思決定と情報システム	第８章
９	企業はどのように競争し協力し合っているのか	競争と協調	第９章
１０	企業はどのように製品やサービスを販売するのか	マーケティングとは	第 10 章
１１	企業はどのように製品やサービスを開発し生産しているのか	研究開発と生産管理	第 11 章
１２	企業はどのように資本を調達し資金を運用するのか	財務管理とは	第 12 章
１３	企業はどのように人材を活用するのか	働く動機と目標管理	第 13 章
１４	企業はどのようにして文化を育むのか	企業文化の形成	第 14 章
１５	全体総括	総括と確認	

履修上の注意・関連科目等

・ 高年次科目の土台（基礎）となる科目なので、安直な好評価は行わない。
・ テキストは必ず自分のものを持参すること。
・ 遅刻・欠席は低評価や単位取得の失敗につながりやすいことを、警告しておく。
・ 受講生としてふさわしくない態度をとり続ける場合には、退室を命じる（欠席扱い）

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　　ワークシートによる	100　％
レポート	☑無し	％
その他（出席状況等）	ワークシートに反映される	％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕文眞堂ブックス　セメスターテキストシリーズ　はじめて学ぶ人のための経営学入門

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：２００９

授業科目コード	ＣＢ－２	授業科目名	企業会計入門	担当教員名	森本和義

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目 必修科目	１～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

本講義では、簿記・会計の基礎的な仕組みについて講義を行う。主としてサービス業（運送業）を例にとって、取引→仕訳→元帳転記→試算表の作成→精算表の作成→帳簿の締切り→財務諸表の作成までの簿記手続の一巡について、練習問題を随時織り交ぜながら具体的に解説する。

授業の目的・到達目標

本講義では、上記の簿記手続の一巡について理解することを到達目標とする。また、簿記手続の一巡についての理解が深まれば、自ずと仕訳帳、元帳、試算表、精算表などの帳簿を実際に作成することができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義の概要・進め方	講義の概要、目的、進め方などを説明。	
２	簿記・会計の目的	複式簿記と会計の目的を講義。	プリント
３	財政状態と貸借対照表	財政状態を示す貸借対照表を説明。	プリント
４	期首・期末貸借対照表	期首貸借対照表と期末貸借対照表を説明。	プリント
５	経営成績と損益計算書	経営成績を示す損益計算書を説明。	プリント
６	財産法と損益法	財産法と損益法を説明。	プリント
７	取引と勘定	簿記上の取引と勘定について説明。	プリント
８	仕訳帳	仕訳と仕訳帳への記帳方法を説明。	プリント
９	元帳	元帳への転記の仕方を説明。	プリント
１０	中間理解度確認テスト	仕訳と元帳転記について確認テスト。	
１１	試算表	決算手続（試算表について説明）。	プリント
１２	決算整理	決算手続（決算整理について説明）。	プリント
１３	精算表	決算手続（精算表について説明）。	プリント
１４	帳簿の締切り	決算手続（帳簿の締切りについて説明）。	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

簿記学というのは、技術的ないし職人的色彩の強い学問である。したがって、その習得のためには、ペンを走らせて地道に練習問題に取り組むことも要求される。とにかく授業の復習に力を入れること。関連科目は、「企業会計Ⅰ」、「企業会計Ⅱ」、「企業会計Ⅲ」など。なお、現代ビジネスコース以外のコースの学生諸君も、積極的に１年次に履修して欲しい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	中間理解度確認テストが３０％、最終試験が５０％。 内容については、講義の中で説明する。	８０　%
その他（出席状況等）	毎回、出欠の確認を行う。	２０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

ＴＡＣ簿記検定講座『合格テキスト日商簿記３級』ＴＡＣ出版、2100 円。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－３	授業科目名	経済新聞の読み方Ⅰ	担当教員名	髙橋 信雄

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	前・後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

経済新聞を読む際に必要な基本的な理論を前半で講義し、後半は実際の新聞記事を読み解くことによって現実の経済、とくに日本経済の現状が理解できるようにする。

授業の目的・到達目標

経済記事を読み解き、現実の経済活動を理解することは、将来の社会人としての必要条件であり、就職活動に際しても自己の資産として活用できる。本講義ではこのようなことを念頭において、実際の経済記事を題材に取り上げ、その読み方の修得を目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	授業の目的・進め方	講義の概要、進め方などを説明。	レジメを配布
２	景気について	GDP（国内総生産）、経済成長など	同上
３	家計の経済活動	消費、物価など	同上
４	企業の経済活動	投資、企業業績、雇用問題など	同上
５	政府の経済活動	財政、税制、金融政策など	同上
６	世界経済の動き	国際関係、欧米・アジアの経済状況	同上
７	日本経済の課題	少子高齢化、環境問題など	同上
８	中間まとめ	前半のまとめと中間テスト	同上
９	新聞記事を読む（１）	最近の新聞記事の読解	新聞記事を配布
１０	新聞記事を読む（２）	同上	同上
１１	新聞記事を読む（３）	同上	同上
１２	新聞記事を読む（４）	同上	同上
１３	新聞記事を読む（５）	同上	同上
１４	全体の復習	後半のまとめと全体の復習	レジメを配布
１５	試験実施と解説	全体の理解度をテストする。	

履修上の注意・関連科目等

毎回、レジメや新聞記事を配布するので、よく復習しておくこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　小テストを 4,5 回実施（内１回は中間テスト） □無し	20　%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		50　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加度を重視	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない（毎回レジメや新聞記事のコピーを配布）

〔参考書・その他〕

三菱 UFJ ﾘｻｰﾁ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ『2010 年日本はこうなる』講談社　2009 年

町田顕「初心者のための『日経新聞』の読み方（最新版）」東洋経済新報社　2007 年

日経新聞社編「Ｑ＆Ａ日本経済 100 の常識」日本経済出版社　2009 年

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：２０１０

授業科目コード	ＣＢ－３	授業科目名	経済新聞の読み方	担当教員名	池田玲子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本経済新聞や経済ニュースに触れ、理解して、自身のビジネスシーンで活用することは、ビジネスパーソンとして当然のことである。しかし、学生の日常生活とは乖離していて、「わかっているけれど」なかなか読み出すことができないのもまた、私たちの現実でもある。この授業では、社会・経済分野のニュースを理解するための基礎を構築する。

授業の目的・到達目標

社会・経済分野のニュースを理解するための基礎知識を形成する。
経済新聞や社会・経済ニュースを身近なものに感じ、自身で理解することができる技術を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価	
2	経済新聞とは	日本経済新聞の構成	
3	ワンピース？！	現実・現代国際社会の海賊	テキスト
4	日本経済に関る数字	日経平均株価とは？	
5	デフレ・インフレ	日銀と金融政策	
6	アメリカ経済記事①	GM 破綻からわかること	
7	アメリカ経済記事②	世界金融危機発生の仕組み	
8	アメリカ経済記事③	FRB	
9	ＳＤＲ	IMF と新国際通貨	
１０	中国経済記事①	新経済大国の一面	
１１	中国経済記事②	谷歌と百度	
１２	EU経済記事①	ユーロと大統領選選出	
１３	アメリカ社会記事①	オバマ政権の課題	
１４	中近東の理解	ドバイショック	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

新聞記事やニュースの理解には知識の蓄積と同時に、「慣れ」が必要です。授業に出席するだけでなく、新聞やネットなどで、広く社会・経済についての情報に接する機会を、積極的にもってください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	有り 無し	%
レポート	有り 無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	ワークシートによる	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕『ニュースを読む技術』池上彰　ビジネス社
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
１号館　３階　　内線	

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＢ－４	授業科目名	経済新聞の読み方Ⅱ (留学生対象科目)	担当教員名	三村 正治

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	１～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要　（留学生一対象）

産業社会学部で学ぶ留学生が経済新聞を日本語で読みこなし、国際経済、日本経済を日本語で理解できるように訓練する。日本で就職を希望する留学生はもちろんのこと進学希望者にも必要な経済学の基礎に係る日本語読解力、表現力を修得させ、ビジネス日本語を学ばせる。

授業の目的・到達目標

日本で就職し、或いは進学する場合に必要な経済学に係る日本語読解力、表現力を学び、
さらに高度なビジネス日本語を修得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義履修ガイダンス	講義内容紹介、学生との約束、講義の進め方	教員が用意する
２	経済新聞の読み方	経済新聞の仕組み、注意する点	―
３ ～ ７	同上	日本経済に係る記事　株式、証券・財政	―
８	中間テスト・解説	前半理解度確認テストと解説	―
９ ～ １３	同上	国際経済に係る記事　国際収支・外国為替	―
１４	同上　（まとめ）	講義振り返り	―
１５	まとめ	全期を通じての理解度の確認と授業総括	―

履修上の注意・関連科目等

１）時事性が強くタイムリーなテーマを取り上げるのでシラバスの順番は目安である。
２）出席を重視し小テスト（出欠確認用）を行う。
３）日本語力をつけるため宿題、予習、復習を課する。
４）（常識的遵守事項）遅刻、授業中の入・退室、私語厳禁。携帯電話・メール使用、飲食持込厳禁。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	１０　％
レポート	□有り ☑無し	％
試　　験	☑有り　（中間テストも予定）	５０　％
その他（出席状況等）	重視（規律遵守）	４０　％

教科書・参考書及び辞典等

特に定めない。新聞、雑誌の記事を使う。ビデオを多用する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：２０１０

授業科目コード	ＣＢ－５	授業科目名	現代経済学	担当教員名	髙橋 信雄

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	前・後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

現実の経済社会の動向を知るための現代経済の基礎的な理論について、日常生活の実感と結びつけて講義する。

授業の目的・到達目標

基本的な経済問題、例えば経済の規模はどうして測るのか、景気がいいとはどんなことか、価格はどうして決まるのか、日本企業の抱える問題点など基礎的な知識と考え方を修得することを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の概要、経済学はどんな学問か	レジメを配布
2	一国の経済活動	家計、企業、政府の活動と相互関係	同上
3	ＧＤＰ〔国内総生産〕	経済規模の測り方、経済成長	同上
4	景気について	景気のサイクル、インフレ、デフレ	同上
5	需要と供給	価格はどうして決まるか	同上
6	市場メカニズム	需給をどう調整するか、競争原理	同上
7	政府の役割	市場原理の限界、経済安定など	同上
8	中間まとめ	前半の講義のまとめと中間テスト	同上
9	財政、税制	国の収支、赤字財政の行方	同上
１０	金融について	お金の役割、金融政策と景気	同上
１１	企業について	企業システム、雇用	同上
１２	国際経済取引	貿易、海外投資、円高・円安とは	同上
１３	これからの経済課題	少子高齢化、環境問題など	同上
１４	復習とまとめ	後半のまとめと全体の復習	同上
１５	授業総括	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

原則として毎回、講義の最後に小テストを実施する。講義のポイントが理解できるようにレジメを配布するので、よく復習しておくこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　原則として授業の終りに毎回小テストを実施（中間テストを含む） □無し	20　%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		50　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加度を重視	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

使用しない（毎回レジメを配布）

〔参考書・その他〕

伊藤元重「はじめての経済学」（上下）日本経済新聞社（日経文庫）2004 年

林雅巳「経済」のしくみー基本の入門書　すばる舎　2009 年

吉野薫「『経済』の基本と常識」フォレスト出版　2008 年

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：２０１０

授業科目コード	ＣＢ－５	授業科目名	現代経済学	担当教員名	吉村　宗隆

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代社会の理解分野	選択科目	２～４	前・後期	2	時間割 参照	キャリアデザイン学科

授業のテーマ・概要

ミクロ・マクロからなる経済理論のうち、本講義では今年度は市場や消費に関するミクロ理論を中心にその基礎的内容について解説する。後半では日本経済全体のトピックスにも触れる。

授業の目的・到達目標

需要、供給、および市場均衡等について、ミクロ理論の基本的な考え方と体系を理解することを目的とする。そしてマクロ的な問題を含め日常的な経済問題について、ミクロ理論をもとに考察できる素養を習得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義ガイダンス	講義の概要、評価方法、試験の方法など	テキスト・資料配布
2	経済学とは	経済学の基本的な考え方①　ミクロとマクロ他	指定テキストｐ16～
3	経済学とは	経済学の基本的な考え方②　機会費用、貨幣他	指定テキストｐ30～
4	市場の経済学	需要と供給、余剰分析	指定テキストｐ48～
5	市場の経済学	独占企業と独占の弊害	指定テキストｐ62～
6	生産の経済学	企業の供給行動	指定テキストｐ76～
7	生産の経済学	費用関数と利潤の最大化	指定テキストｐ82～
8	中間レビュー	ここまでの復習　他	
9	消費の経済学	消費と効用	指定テキストｐ92～
１０	消費の経済学	所得、価格と需要	指定テキストｐ100～
１１	景気の経済学	インフレ・デフレと市場均衡の変化	指定テキストｐ112～
１２	政策の経済学	金融政策・財政政策の概要	指定テキストｐ132～
１３	グローバル経済学	経常収支と貿易の経済学	指定テキストｐ156～
１４	日本経済レビュー	長期でみる日本経済	指定テキストｐ182～
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

「くらしと経済」等経済学関連科目を履修していることを前提とする。
今年度は本講義でマクロ経済理論を、「現代経済学」でミクロ経済理論を中心に講義する予定である。
グラフ、数式を多用する授業になるので、理論的な問題に関心のある人の受講を希望する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　授業中一定の進度ごとに小テストを行います。 □無し	40　%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		60　%
その他（出席状況等）	小テスト等とあわせて評価する。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
江夏健一監修　グローバルタスクフォース㈱著『通勤大学 MBA９　経済学』総合法令出版　2003.
〔参考書・その他〕
山田勝裕『パワーポイント版　経済原論』晃洋書房　2004.
奥野正寛『ミクロ経済学』東京大学出版会 2008.

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－６	授業科目名	応用経済学	担当教員名	蔡　明哲

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

金融の基礎知識や基本概念、仕組みなど金融経済の基本をわかりやすく説明する。

授業の目的・到達目標

経済は生産・分配・支出の活動を行う「実物部門」と、その活動に資金を融通する「金融部門」に分類される。本講義では「金融部門」を軸に、個人(家計)と企業の金融活動はどのように行われているのか、金融システムはどのように構成され、またどのような機能を果たしているのか、そして、経済における金融の役割を考察する。とりわけ、金融の仕組みと基本知識および基本概念を身につけ「金融の基礎力」を高めることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義概要、意義、進め方	
2	貨幣の機能	お金の仕組みと３つの機能	プリント・パワーポイント
3	金融の機能	金融とは何か？経済における金融の役割	プリント・パワーポイント
4	金融活動	家計・企業はどのように資金調達をするのか	プリント・パワーポイント
5	株の仕組み	株とは何か、株式市場	プリント・パワーポイント
6	〃	株の取引、リスク、株価の変動要因	プリント・パワーポイント
7	〃	上場、株式分割・株式交換	プリント・パワーポイント
8	債券の仕組み	債券とは何か、債券の種類、役割	プリント・パワーポイント
9	〃	債券の取引、価格の変動要因	プリント・パワーポイント
１０	金融市場と金融商品	短期金融市場とその役割	プリント・パワーポイント
１１	〃	金融デリバティブ取引と証券化	プリント・パワーポイント
１２	〃	金融商品とは？これからの金融商品	プリント・パワーポイント
１３	金融機関	銀行、証券会社、投資信託、投資ファンド	プリント・パワーポイント
１４	為替相場	円高・円安、外国為替の取引	プリント・パワーポイント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

○授業毎に指定する講義の内容を予習すること。
○授業内容について必ずメモをとり、そのつど整理しておくこと。
○私語、遅刻、途中退室は厳禁。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　　授業内容の理解度小テストを行う □無し	30%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	☑有り □無し	50%
その他（出席状況等）	出席および授業態度を重視する。	20%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕
野村証券金融経済研究所 編『金融の基本 Q&A50』日本経済新聞出版社、2010 年 9 月
安達智彦＋武蔵大学金融学科『金融の基本』日本実業出版社、2009 年 6 月
田渕直也『金融基礎力養成講座』日本実業出版社、2009 年 5 月

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－６	授業科目名	応用経済学	担当教員名	吉村　宗隆

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代社会の理解分野	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	キャリアデザイン学科

授業のテーマ・概要

今年度の本講義では、経済理論のうち特にマクロ経済学理論を中心に授業を行う。マクロ理論の初歩から初めて基本的な体系について概要を講義する。

授業の目的・到達目標

ミクロ経済学との比較におけるマクロ経済学の特徴を理解し、その上でマクロ経済学の基本的な体系について理解を深め基礎的な知識を習得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	講義の概要、授業の進め方、評価方法など	
2	マクロ経済学の意義	マクロ経済学の意義、特徴、体系	指定テキストｐ11～
3	ＧＤＰの意義	GDP の定義、三面等価の原則	指定テキストｐ25～
4	財市場の分析①	消費、貯蓄、投資、財政、輸出入の動向	指定テキストｐ47～
5	財市場の分析②	有効需要の原理と 45 度線分析	指定テキストｐ75～
6	財市場の分析③	乗数理論	指定テキストｐ87～
7	貨幣市場の分析	利子率と貨幣市場の均衡	指定テキストｐ93～
8	中間レビュー	ここまでの復習　他	
9	IS-LM 分析①	IS-LM 曲線、財市場と貨幣市場の同時均衡	指定テキストｐ117～
１０	IS-LM 分析②	IS-LM 曲線と財政金融政策の効果	指定テキストｐ128～
１１	IS-LM 分析②	IS-LM 曲線とマンデル=フレミング・モデル	指定テキストｐ47～
１２	物価水準の決定	総需要と総供給、労働需給の決定	指定テキストｐ157～
１３	インフレとデフレ	フィリップス曲線と期待インフレ率	指定テキストｐ189～
１４	消費と投資の理論	消費の仮説モデルと投資理論	指定テキストｐ217～
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

「くらしと経済」等経済学関連科目を履修していることを前提とする。
今年度は本講義でマクロ経済理論を、「現代経済学」でミクロ経済理論を中心に講義する予定である。
グラフ、数式を多用する授業になるので、理論的な問題に関心のある人の受講を希望する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	４０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験		６０　％
その他（出席状況等）	小テスト等とあわせて評価する。	％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
中谷巌『マクロ経済学入門』（日経文庫）　日本経済新聞社　2007
〔参考書・その他〕
山田勝裕『パワーポイント版　経済原論』晃洋書房　2004.
マクロ経済学の入門書、概説書等については授業中紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－７	授業科目名	ビジネス法務Ⅰ	担当教員名	池内 博一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

我々各個人は、「法」という社会的ルールに従って日常生活を営まねばならない。この「法」にはさまざまな種類のものがあるが、日常生活にとって密接に関連する法として、「民法」という法律が挙げられる。「民法」は、日常生活において生じるさまざまな法律関係についてのルールを定めており、私たちが日常生活を営む上でなくてはならない、最も基本的な法律である。そこで、この講義では、判例や新聞事例などの具体例を織り交ぜながら、民法の基礎知識の修得を目指して講義する。

授業の目的・到達目標

民法を学習することにより、法の基礎知識を修得し、日常生活において生じるさまざまな法律問題（民事上の問題）について、各自が自らの力で考えられるようになることを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義ガイダンス	講義の受け方・進め方	講義プリント配布
２	民法の基礎知識	民法とは何か（民法の意義・基本原則）	講義プリント配布
３	総則①	人の能力（権利能力・意思能力・行為能力）	講義プリント配布
４	総則②	法律行為（詐欺・強迫・代理）	講義プリント配布
５	物権法①	物権とは（物権の種類・物権の発生と消滅）	講義プリント配布
６	物権法②	各種の物権（所有権・用益物権・担保物権）	講義プリント配布
７	債権法①	債権とは（債権の種類・債権の発生と消滅）	講義プリント配布
８	債権法②	契約（契約の種類）	講義プリント配布
９	債権法③	契約（契約解除・クーリングオフ制度）	講義プリント配布
１０	債権法④	不法行為（事故と損害賠償）	講義プリント配布
１１	家族法①	親族（夫婦関係）	講義プリント配布
１２	家族法②	親族（親子関係）	講義プリント配布
１３	家族法③	相続（相続・遺言）	講義プリント配布
１４	まとめ	講義のまとめ・質疑応答	講義プリント配布
１５	授業総括	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

①私語・遅刻・途中退室は慎むこと（自分に厳しく）
②民法に興味を持つこと（こちらも努力します）
③積極的な態度で受講すること（期待しています）

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	試験を実施する。内容・形式等については決まり次第伝える。	８０　%
その他（出席状況等）	出席状況と受講態度を併せて評価する。	２０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
講義プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
六法（最新版）。その他の参考書（講義において随時指示する）。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：２００８

授業科目コード	ＣＢ－１	授業科目名	現代企業論		担当教員名	吉村　宗隆
科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割参照	キャリアデザイン学科

授業のテーマ・概要

本授業のテーマは、①基礎的な経営学の知識を習得し、②それを土台として現代社会で活動する実際の諸企業が直面する問題点や課題につき幅広い観点から理解し、③その解決の方向を検討することである。

授業の目的・到達目標

現代の企業が持つ諸課題を、理論的な背景を確認しながら、自分なりの位置づけ、理解ができるようになることを到達目標とする。その前提として、指定テキストの内容を理解し、基礎的な知識を習得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	講義の概要、授業の進め方、評価方法など	
２	企業経営とは	企業経営の意義、ｽﾃｲｸﾎﾙﾀﾞｰと CSR	指定テキストｐ15～
３	経営理念と組織の価値観	経営理念、ﾋﾞｼﾞｮﾝ、組織の価値観	指定テキストｐ31～
４	戦略のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ①	戦略の意義、全社戦略、事業戦略	指定テキストｐ41～
５	戦略のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ②	３つの基本戦略　他	指定テキストｐ60～
６	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ①	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの役割とﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾐｯｸｽ	指定テキストｐ66～
７	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ②	顧客起点のﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ　他	指定テキストｐ92～
８	中間レビュー	ここまでの復習　他	
９	組織のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	組織構造とｺｰﾎﾟﾚｰﾄｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ	指定テキストｐ105～
１０	人材のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	人材ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄのしくみとｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	指定テキストｐ125～
１１	資金のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ①	決算と財務諸表	指定テキストｐ143～
１２	資金のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ②	資金調達と財務	指定テキストｐ154～
１３	ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝの改革手法と品質管理　他	指定テキストｐ165～
１４	成長と再生のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	成長戦略と M&A	指定テキストｐ189～
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

企業について幅広い観点から検討するので、できれば「くらしと経済」「現代経済学」等経済学関連科目も履修しておくことが望ましい。指定テキストは必携。
１５回の授業期間中に授業内容に即した小テストを数回実施する予定なので、必ず受験すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	40　%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		60　%
その他（出席状況等）	小テスト等とあわせて評価する。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
遠藤巧『企業経営入門』日本経済新聞社、2005
〔参考書・その他〕
小田切宏之『企業経済学　第２版』東洋経済新報社、2010.その他授業中に紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－10	授業科目名	中小企業論	担当教員名	合澤　浩之

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

現在の日本経済の閉塞状況を打破するには、総企業数の９９％以上を占める中小企業の活性化が不可欠である。中小企業の現状と活性化のために何が必要なのかをわかりやすく講義する。
中小企業診断士試験の『中小企業経営・中小企業政策』で出題される内容の基本的な部分を網羅する。

授業の目的・到達目標

中小企業が経済、社会でどのような役割を担っているのか、今後の発展に向けてどのような課題があるのかを、講義と事例演習を通じて理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	講義の目的、進め方に関するガイダンス	
２	中小企業とは①	中小企業の定義と位置づけ	
３	中小企業とは②	中小企業を取り巻く環境と経営課題	
４	ベンチャー企業①	ベンチャー企業の特徴と発展過程	
５	ベンチャー企業②	中小企業におけるイノベーションの展開	
６	地域経済と中小企業	地域経済を支える中小企業	
７	同上	事例演習	
８	サービス経済化と中小企業	中小サービス産業の現状と課題	
９	同上	事例演習	
１０	中小企業による IT 活用	中小企業の IT 化の現状と課題	
１１	中小企業のグローバル化	中小企業のグローバル化の現状と課題	
１２	同上	事例演習	
１３	中小企業政策①	中小企業基本法	
１４	中小企業政策②	中小企業施策の目的と事例	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

毎回のテキストの範囲を指定するので、該当箇所を必ず予習すること。
私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと（出席とは認めない）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　途中で１回実施する。実施日等は事前に説明する。 □無し	２０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験	内容・形式等については、授業の中で説明する。	５０　％
その他（出席状況等）	出席状況及び授業態度を重視する。	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕TAC 中小企業診断士講座『中小企業診断士スピードテキスト〈7〉中小企業経営・中小企業政策〈2011 年度版〉』TAC 出版　2310 円
〔参考書・その他〕高田亮爾他『現代中小企業論［増補版］』同友館

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	講義中に指示する

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－１１	授業科目名	経営組織論	担当教員名	池田玲子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「組織は戦略に従う」という言葉があります。組織は戦略の変更によってその姿を変え、私たちの職場はその「組織」のなかに位置しています。『踊る大捜査線』のケーススタディを用いて、「組織」について考察し、企業や自分の「働き方」についての視角をひろげていきたいと考えています。

授業の目的・到達目標

・ 企業組織のプロットタイプを知り、その特徴を理解すること
・ 「働く個人」のモチベーションについて、共感し考察すること
・ さまざまなリーダーシップを知り、自分のスタイルを育ててみよう

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	授業の進め方	ワークシート
２	ケーススタディ	『踊る大捜査線』映画版２（前半）	
３		『踊る大捜査線』映画版２（後半）	
４	組織のダイナミズム	「事件は会議室で起きているんじゃない」	
５		資源配分と意思決定の方法	
６	組織とミッション	私人と組織人・組織文化との共存	
７		やる気と無気力の設計	
８		やりがいとキャリアデザイン	
９	組織のカタチ	官僚制組織の特徴	
１０		順機能と逆機能	
１１		組織図の読解	
１２	組織とリーダーシップ	リーダーシップの意義・上司の存在理由	
１３		さまざまなリーダーシップスタイル	
１４		リーダー以外の重要な役割	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

この授業はケーススタディスタイルをとる。２．３回目で全授業の前提として用いるケースの映画を鑑賞するので、注意すること。ワークシートを用いて双方向性の授業を心がけたい。ワークシートの取扱については初回に説明するが、成績評価にかかわるので厳密に管理すること（他者の取扱は理由の如何を問わず不正行為とみなし、単位認定しないことがある）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	有り 無し○	%
レポート	有り 無し○	%
試　　験	ワークシートによる	100　%
その他（出席状況等）		%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕
『踊る大捜査線に学ぶ組織論入門』　かんき出版

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
１号館　３階　　内線	

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＢ－12	授業科目名	ビジネスモデル論		担当教員名	燈田 順子
科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

現代の企業のなかで勝ち組になっているのは、儲かる“種”探しがうまかったのではなく、儲かる“仕組み”を上手につくったからです。この儲かる仕組みをつくることを「ビジネスモデル」といいます。授業では、ビジネスの勝敗を決めることになるビジネスモデルの基礎を学びます。

授業の目的・到達目標

学生にはなかなか理解しにくいけれど、ビジネス社会では標準語・標準のキーワードになっているビジネスモデルというものについて、イメージや感覚をもつことができればよい。
具体的には本講義を学ぶことで、
１）これまで（従来）の業界や企業がどう動いており、
２）どこを新しいモデルに変えたから成功したのか、
新旧の比較が理解できるよう努力すること

授業内容・授業スケジュール

項目	内容
科目ガイダンス	当該科目についてのガイダンスを行う
前提となるビジネスについての理解	企業経営のエンジンである基本の復習（マーケティング全体）
前提となるビジネスについての理解	企業の勝敗を決める「競合」について
ビジネスモデルの背景	ビジネスモデルが登場した背景
ビジネスモデルとは	「儲ける」と「儲ける仕組み」の違い
ビジネスモデルの主たる要素	最小限要素であるマーケテイィング・オペレーション・競合の観点からとらえる
様々なビジネスモデルの事例探索	上記３要素からビジネスモデルを探してみる
ビジネスモデルの評価	従来のモデルを知ることでビジネスモデルが生まれることを学ぶ
ビジネスモデルの分類（流通業界）	ビジネスモデルを流通業界で考えてみる
ビジネスモデルの分類（製造業界）	ビジネスモデルを製造業界で考えてみる
ビジネスモデルの分類（同業他企業）	ビジネスモデルを同業界の異なる企業で比較してみる
新しいビジネスモデルの紹介	IT 企業から始まり全企業・全事業に広がっている事例の紹介と解説
ビジネスモデルの事例探索（各自 or グループ）	再度、各自でビジネスモデルを探し、どこが新しいのか新旧の比較をまとめる（図形・PPT）
発表と評価	新旧のモデルを比較した図の発表と質疑
まとめ	全体の理解度の確認と授業総括

履修上の注意・関連科目等

① 講義内容が実際の経営問題に深くかかわるため経営学概論・マーケティングⅠ．Ⅱについて理解している学生を対象とする。
② 経営の核心に触れる専門用語が多く出るので自分の理解を事後の講義復習として毎回まとめたうえで履修すること。
③ ビジネスニュースに毎日接し、企業名を覚えるようにすること。
④ 質問はいつでもメールを送付してください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り（毎回、前授業の復習として質疑を実施することで代替する）	30%
レポート	■有り　（まとめと PPT での発表）	0%
試験		40%
その他（出席状況等）	①　出席と授業への積極的な度合いを重視する。自己学習者は評価 ②　3 回以上欠席すれば授業についてこられないため 3 回以上の欠席は試験無資格とする。	30%

教科書・参考書及び辞典等

〔参考書・その他〕　ビネスモデル革命:寺本義也/岩崎尚人　生産性出版　￥1,600

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－１４	授業科目名	マーケティングⅠ	担当教員名	合澤　浩之

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

マーケティングとは一体何か、企業活動の中でどのような役割を果たしているのか、実際に企業のマーケティング活動はどのように行われているのか、をわかりやすく講義する。

授業の目的・到達目標

マーケティングビジネス実務検定Ｃ級合格レベルの知識習得を目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	講義ガイダンス、検定の概要	テキスト・プリント
２	マーケティング概念	マーケティングとは何かを理解する	同上
３	マーケティングコンセプト	マーケティングの考え方の変化を学ぶ	同上
４	マーケティングマネジメント	マーケティングの３Ｃと４Ｐを理解する	同上
５	市場細分化	市場の捉え方を理解する	同上
６	標的市場設定	標的市場設定の方法を理解する	同上
７	前半の復習	前半ポイント解説、演習	同上
８	マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチのプロセスと方法を理解する	同上
９	消費者行動	消費者の購買行動を理解する	同上
１０	製品戦略	製品・サービスの分類を理解する	同上
１１	価格戦略	価格決定のメカニズムを学ぶ	同上
１２	流通チャネル戦略	流通が持つ機能を理解する	同上
１３	プロモーション戦略	プロモーションミックスを理解する	同上
１４	後半の復習	後半ポイント解説、演習	同上
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

マーケティングに関心のある学生を対象とする。
受講者はマーケティングビジネス実務検定Ｃ級を受験することが望ましい。
私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと（出席とは認めない）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　途中で１回実施する。実施日等は事前に説明する。 □無し	２０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験	内容・形式等については、授業の中で説明する。	５０　％
その他（出席状況等）	出席状況及び授業態度を重視する。	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕国際実務マーケティング協会編『マーケティングビジネス実務検定オフィシャルテキスト第３版』税務経理協会　2009 年　2520 円
〔参考書・その他〕同『マーケティングビジネス実務検定Ｃ級テーマ別問題集』MHJ 出版

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	講義中に指示する

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－１７	授業科目名	販売管理Ⅰ	担当教員名	岡阪　寿人

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	１～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本商工会議所の検定試験である販売士３級の本試験合格を目指した講義を行う。また、内容の理解を促進するために、身近なコンビニの事例やヒット商品などを取上げながら、小売ビジネスの基本を講義する。

授業の目的・到達目標

日本商工会議所主催の販売士３級検定試験（平成 24 年２月 15 日実施）の合格をめざす。
また、本試験合格をより確実にするため、科目免除制度（販売経営管理の受験免除）の適用を受ける。
（科目免除を受けるためには、一定以上の出席と予備テストの合格、さらに「ビジネスマネジメント特殊講義Ⅰ（2 月集中講義の予定）を引き続き受講することが必要）

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	小売業の類型①	小売業と流通業の基本的役割を学ぶ	
２	小売業の類型②	様々な店舗形態について学ぶ	
３	小売業の類型③	ﾁｪｰﾝｽﾄｱやｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰについて学ぶ	ミニテストⅠ
４	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ①	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞの意味と内容を学ぶ	
５	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ②	商品計画と仕入計画を学ぶ	
６	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ③	価格設定と値入の計算を学ぶ	ミニテストⅡ
７	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ①	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝの基本的役割を学ぶ	
８	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ②	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲと作業割当てを学ぶ	
９	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ③	人的販売の基本を学ぶ	ミニテストⅢ
１０	販売経営管理①	販売の基本と法令知識を学ぶ	
１１	販売経営管理②	販売計数の計算を学ぶ、予備ﾃｽﾄの実施	販売経営管理予備ﾃｽﾄ
１２	マーケティング①	小売ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの基本を学ぶ	
１３	マーケティング②	顧客管理と販売促進を学ぶ	
１４	マーケティング③	商圏設定と売場づくりの基本を学ぶ	ミニテストⅣ
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・　２回以上欠席すると、本試験で科目免除を適用できないので注意すること。
・　私語の多いものは退出させる場合もある。
・　本試験合格のためには、原則ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ特別講義Ⅰも必ず履修すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　科目ごとのミニテストと、販売経営管理の予備テスト □無し	２０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験		５０　％
その他（出席状況等）	出席は科目免除を適用するためにも必要。	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕講義の初回に販売するので、現金を持参すること。
販売士３級養成講習会テキスト４,２００円、販売士３級サブノート２,１００円、合計６,３００円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	講義中に指示する

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＢ－１８	授業科目名	販売管理Ⅱ	担当教員名	岡阪　寿人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本商工会議所の検定試験である販売士２級の本試験合格を目指した講義を行う。また、内容の理解を促進するために、様々な小売業態や商品政策、店舗運営等の事例を取上げながら、小売ビジネスの実践とマネジメントについて講義する。

授業の目的・到達目標

日本商工会議所主催の販売士２級検定試験（平成 23 年 10 月 5 日実施）の合格をめざす。
また、本試験合格をより確実にするため、科目免除制度（販売経営管理の受験免除）の適用を受ける。
（科目免除を受けるためには、一定以上の出席と予備テストの合格、さらに「ビジネスマネジメント特別講義Ⅱ(9 月集中講義の予定）を引き続き受講することが必要）

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	小売業の類型①	流通と小売業、流通経路についてを学ぶ	
２	小売業の類型②	組織別・業態別の小売業について学ぶ	
３	小売業の類型③	ﾁｪｰﾝｽﾄｱや商業集積について学ぶ	ミニテストⅠ
４	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ①	商品知識と仕入計画について学ぶ	
５	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ②	戦略的商品計画と価格設定について学ぶ	
６	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ③	商品管理と販売計画について学ぶ	ミニテストⅡ
７	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ①	店舗運営ｻｲｸﾙと ISM について学ぶ	
８	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ②	戦略的ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲと LSP について学ぶ	
９	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ③	人的販売の実践と管理について学ぶ	ミニテストⅢ
１０	販売経営管理①	販売管理者の基本と法令について学ぶ	
１１	販売経営管理②	販売に関する経営分析を学ぶ、予備ﾃｽﾄの実施	販売経営管理予備ﾃｽﾄ
１２	マーケティング①	小売業のﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・ﾐｯｸｽの実践を学ぶ	
１３	マーケティング②	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞﾘｻｰﾁ、商圏と出店戦略について学ぶ	
１４	マーケティング③	販売促進策の企画と実践について学ぶ	ミニテストⅣ
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

- 販売士３級合格者の履修が望ましい。
- ２回以上欠席すると、本試験で科目免除を適用できないので注意すること。
- 私語の多いものは退出させる場合もある。
- 本試験合格のためには、原則ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ特別講義Ⅱも必ず履修すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　科目ごとのミニテストと、販売経営管理の予備テスト □無し	２０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験		５０　％
その他（出席状況等）	出席は科目免除を適用するためにも必要。	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕講義の初回に販売するので、現金を持参すること。
販売士２級ハンドブック７,２００円、販売士２級サブノート２,１００円、合計９,３００円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	講義中に指示する

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＢ－19	授業科目名	企業会計Ⅰ	担当教員名	森本和義

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

簿記会計というのは、ビジネス社会において最も重要視されている知識の一つである。本講義では、複式簿記のシステムを通じて作成される会計情報、すなわち貸借対照表や損益計算書などの財務諸表に焦点を合わせて、その意味や分析方法について具体的に解説を行う。

授業の目的・到達目標

貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を理解することができる能力（会計リテラシー）を修得することを本講義の目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義の概要・進め方	講義の概要、目的、進め方などを説明。	テキスト第１章
２	貸借対照表とは	貸借対照表の仕組みを講義。	テキスト第２章
３	資産とは	流動資産、固定資産および繰延資産を講義。	テキスト第２章
４	負債とは	流動負債と固定負債を講義。	テキスト第２章
５	純資産とは	株主資本、評価・換算差額等を講義。	テキスト第２章
６	損益計算書とは	損益計算書の仕組みを講義。	テキスト第３章
７	損益計算のルール	損益計算の３つのルールを講義。	テキスト第３章
８	利益概念	５つの利益概念を講義。	テキスト第３章
９	キャッシュ・フロー	キャッシュ・フロー計算書の仕組みを講義。	テキスト第４章
１０	財務諸表分析	財務諸表分析の基本体系を講義。	テキスト第５章
１１	百分比財務諸表分析	百分比財務諸表分析を講義。	テキスト第５章
１２	成長性分析	成長性分析を講義。	テキスト第５章
１３	安全性分析	安全性分析を講義。	テキスト第５章
１４	収益性分析	収益性分析を講義。	テキスト第５章
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

関連科目である「企業会計入門」は、履修済みであることが望ましい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	２０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験	内容については、講義の中で説明する。	６０　％
その他（出席状況等）	毎回、出欠の確認を行う。	２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト３級』中央経済社、1,500 円。

〔参考書・その他〕

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式過去問題集３級』中央経済社、1,680 円。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－20	授業科目名	企業会計Ⅱ	担当教員名	森本和義

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネスト分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

本講義では、簿記・会計の基礎的な仕組みについて講義を行う。「企業会計入門Ｉ」で学習したサービス業（運送業）から商品売買業（商店）に舞台を移して、簿記手続の一巡について練習問題を随時織り交ぜながら具体的に解説する。

授業の目的・到達目標

本講義では、商品売買業（商店）の簿記手続の一巡について理解することを到達目標とする。本講義では、とくに個々の取引の仕訳処理と８桁精算表の完成に力を入れて学習して欲しい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義の概要・進め方	講義の概要、目的、進め方などを説明。	
２	商品売買の記帳	３分法、仕入諸掛、返品、値引きの説明。	テキスト３章
３	現金の処理	現金と現金過不足の説明。	テキスト４章
４	当座預金の処理	当座預金と当座借越の説明。	テキスト４章
５	商品売買損益の計算	商品売買損益の計算について説明。	テキスト８章
６	商品売買取引の記帳	商品売買取引の決算整理と８桁精算表の説明。	テキスト８章
７	手形の処理	約束手形と為替手形の説明。	テキスト４章
８	貸し倒れの処理	売上債権の貸し倒れについての説明。	テキスト８章
９	貸倒引当金の設定	貸倒引当金の設定についての説明。	テキスト８章
１０	中間まとめ	商品売買取引の仕訳問題と精算表の練習問題。	
１１	減価償却費の計算方法	減価償却費の計算方法（定額法）の説明。	テキスト８章
１２	減価償却費の記帳方法	減価償却費の記帳方法の説明。	テキスト８章
１３	費用・収益の繰延と見越	費用・収益の繰延と見越について説明。	テキスト９章
１４	練習問題	８桁精算表の完成。	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

簿記学というのは、技術的ないし職人的色彩の強い学問である。したがって、その習得のためには、ペンを走らせて地道に練習問題に取り組むことも要求される。とにかく授業の復習に力を入れること。関連科目である「企業会計入門」と「企業会計Ｉ」は、履修済みであることが望ましい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	２０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験	内容については、講義の中で説明する。	６０　％
その他（出席状況等）	毎回、出欠の確認を行う。	２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

大原簿記学校編『完全合格のための日商簿記３級テキスト』大原出版、1600 円。

または、ＴＡＣ簿記検定講座『合格テキスト日商簿記３級』ＴＡＣ出版。

〔参考書・その他〕　ＴＡＣ簿記検定講座『合格トレーニング日商簿記３級』ＴＡＣ出版。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－23	授業科目名	東アジア経済論	担当教員名	蔡　明哲

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

東アジア経済発展の軌跡と特徴および今後の展望について講義する。
とりわけ、東アジア経済を学ぶために必要な情報や視座を提供する。

授業の目的・到達目標

経済のグローバル化の中、東アジアは世界経済を牽引する存在となり、その動向は 21 世紀世界経済の新たな秩序を左右する重要な要因になりつつある。本講義では、こうした動向を踏まえ、東アジア経済成長の歴史的経緯、成長の要因と特質、現状と直面している課題および日本経済との関係を考察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義概要、意義、進め方	
2	現代東アジア	東アジアのダイナミズム	プリント・パワーポイント
3	東アジアの経済発展	直接投資と貿易構造の変化	プリント・パワーポイント
4	〃	中華系資本の役割	プリント・パワーポイント
5	〃	アジア通貨危機と経済再建	プリント・パワーポイント
6	〃	新たな成長シナリオを模索する NIEs	プリント・パワーポイント
7	〃	成長の踊り場を迎えた ASEAN	プリント・パワーポイント
8	「東アジアの奇跡」論争	「東アジアの奇跡」報告	プリント・パワーポイント
9	経済の地域主義	AFTA、NAFTA、EU	プリント・パワーポイント
１０	東アジアと日本経済	円ドルレートの変動と東アジア	プリント・パワーポイント
１１	日本の経済発展	日本経済の今後の課題	プリント・パワーポイント
１２	中国の経済発展	真の経済大国への道を歩む中国	プリント・パワーポイント
１３	韓国の経済発展	韓国経済の実態と課題	プリント・パワーポイント
１４	日中経済関係	中国経済の台頭と日本のポジショニング	プリント・パワーポイント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

○授業毎に指定する講義の内容を必ず予習すること。
○授業内容について必ずメモをとり、そのつど整理しておくこと。
○遅刻、私語、途中退室は厳禁。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　授業内容の理解度小テストを行う □無し	30%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	☑有り □無し	50%
その他（出席状況等）	出席および授業態度を重視する。	20%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、2002 年 2 月
今井宏　他『テキストブック・21 世紀アジア経済』勁草書房、　2003 年 4 月
北原淳・西澤信善『アジア経済論』ミネルヴァ書房、　2005 年 7 月

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－24	授業科目名	アジアビジネス論	担当教員名	蔡　明哲

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

今アジアそして中国は世界の市場として熱い視線を浴びている。如何にアジア・中国ビジネスを成功に導くか、そのためのポイントとなるビジネス環境、現地化、最新動向などをわかりやすく説明する。

授業の目的・到達目標

アジア・中国のビジネス環境、直接投資、人材管理と現地化、そしてアジアビジネスにおける強い個性とも言われる社会的構造、ビジネス慣習とスキル、価値観などを歴史的、経済的、文化的な視点から考察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、意義、進め方	
2	ビジネス環境	激変するアジアビジネス環境	プリント配布
3	〃	台頭する中国－現状と課題	プリント配布
4	企業経営戦略	中国企業の経営戦略	プリント配布
5	〃	日米中企業経営の特徴	プリント配布
6	〃	日本の対中国直接投資動向	プリント配布
7	人材管理と現地化	「現地化」に取り組みはじめた日系企業	プリント配布
8	〃	中国進出日系企業の人材マネジメント	プリント配布
9	ビジネス文化	「権力社会」と「文化社会」	プリント配布
１０	〃	似て非なる日本と中国のビジネス文化	プリント配布
１１		企業経営における儒教文化	プリント配布
１２	韓国の経済発展	経済発展の特徴と比較	プリント配布
１３	台頭するインド	世界が注目するインドの大躍進	プリント配布
１４	〃	インドの政治・宗教・文化	プリント配布
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

○経済・経営学・ビジネスに関連する授業を履修すること。
○授業内容について必ずメモをとり、そのつど整理しておくこと。
○私語、遅刻、途中退室は厳禁。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　授業内容の理解度小テストを行う □無し	30%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	☑有り □無し	50%
その他（出席状況等）	出席および授業態度を重視する	20%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕
浅海信行『韓国・台湾・中国企業の成長戦略』勁草書房、2008 年 10 月
日本経済研究センター編『大解説中国経済』日本経済新聞社、2005 年 9 月
門倉貴史『今のインドがわかる本』三笠書房、2007 年 5 月

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－25	授業科目名	経営戦略論	担当教員名	燈田　順子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	３・４	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

初めて経営戦略を学ぶ学生を対象にビジネスシーンで重要な役割を持つ経営戦略の全体像と一通りの流れを理解してもらうこと。
１）経営戦略の知識や基本を理解してもらう。
２）実例を用いながら戦略策定の分析ツールの紹介を行う。
競合に勝つための競争戦略をどのように見つけ出したり生み出したりしているかについて事例を見ながら考え方を学んでゆく。

授業の目的・到達目標

多様で複雑な要素や要因が絡まりあう経営戦略について「組合せの妙」を感覚的にでもつかんでもらうこと。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
１	オリエンテーション	授業概要と授業の進め方	
２	経営戦略の基礎知識	戦略の歴史・戦略と戦術の区別・企業の前提と経営戦略の関係について	下記記載テキスト
３	変化してゆく経営コンセプト	経営コンセプトの変遷・経営戦略の種類について	
４	企業が持つべき２種類の戦略	マーケティング戦略とイノベーション戦略	
５	経営戦略の基本	経営戦略を取り巻く要素・経営戦略のレベル	
６	企業を取り巻く環境の分析	SWOT とクロス SWOT について	
７	自社の生存すべき領域はどこか	戦略ドメインについて	
８	市場開拓か新製品開発か	アンゾスの成長ベクトルについて	
９	多角化のタイプを分ける	４つの多角化戦略について	
１０	投資すべき事業を見つけだす	PPM とビジネスクリーンについて	
１１	戦略策定のための目的にあった分析ツールの紹介	PEST 分析・ファイブフォース・モデル・３C 分析・バリューチェーン分析・バーニーの VIRO 分析・７S 分析など	
１２	競合に勝つための競争戦略	M.ポーターの基本戦略・創造的模倣戦略・マーケットシェア戦略・競争地位別戦略など	
１３	競争戦略としてのマーケティング戦略	顧客の観点・商品の観点・ブランドの観点について（詳しくはマーケティング科目を受講）	
１４	会社を飛躍させる戦略	イノベーション戦略について	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

理解をしてもらうため実際の企業事例を通じて授業を進めるので TV 番組(WBS)や経済新聞・ビジネス雑誌などから日常的にビジネス情報の収集・蓄積を行っておくこと。
マーケティング科目・経営学概論科目の受講を終了者が望ましい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　基本用語・基礎知識について □無し	20　%
レポート	☑有り　適宜、事例研究の課題提出 □無し	30　%
試　　験	実施	50　%
その他（出席状況等）	欠席３回で無資格とする（応用なので授業についてゆけない）。積極的な考え方の発言を期待する。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
日本で一番わかりやすい経営戦略の本　日本能率協会マネジメントセンター　安田貴志
ISBN978-4-8207-1752-2C2034
〔参考書・その他〕
経営戦略をつかむ　有斐閣　浅羽　茂・牛島辰男著　ISBN978-4-641-17713-0

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
１号館　２階　　内線	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＢ－28	授業科目名	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ特別講義Ⅰ	担当教員名	岡阪　寿人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	１～４	前期集中	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本商工会議所の検定試験である販売士２級の本試験合格を目指した講義を集中講義で行う。
特に模擬試験問題を中心とした問題演習を行い、本試験合格に向けた実践力を養成する。

授業の目的・到達目標

日本商工会議所主催の販売士２級検定試験（平成 23 年 10 月 5 日実施）の合格をめざす。

授業内容・授業スケジュール（時間:10:00～15:30）遅刻厳禁

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	小売業の類型①	小売業の類型の重点ポイントを押さえる	
	小売業の類型②	小売業の類型の重点ポイントを押さえる	
	小売業の類型③	模擬試験を実施する	模擬試験問題
2	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ①	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞの重点ポイントを押さえる	
	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ②	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞの重点ポイントを押さえる	
	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ③	模擬試験を実施する	模擬試験問題
3	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ①	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝの重点ポイントを押さえる	
	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ②	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝの重点ポイントを押さえる	
	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ③	模擬試験を実施する	模擬試験問題
4	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ①	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの重点ポイントを押さえる	
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ②	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの重点ポイントを押さえる	
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ③	模擬試験を実施する	模擬試験問題
5	直前対策①	小売業の類型とﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞのまとめを行う	
	直前対策②	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝとﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞのまとめを行う	
	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

- 原則、販売管理Ⅱを履修した上で本授業を履修すること。
- 販売管理Ⅱを履修していない者は、科目免除制度が適用されないので注意すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　科目ごとの模擬試験（4 科目） □無し	３０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験		５０　％
その他（出席状況等）		２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕講義の初回に販売するが、販売管理Ⅱを履修した者は購入不要
販売士２級ハンドブック７,２００円が必要。（サブノートは不要）
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	講義中に指示する

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＢ－29	授業科目名	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ特別講義Ⅱ	担当教員名	岡阪　寿人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 現代ビジネス分野	選択科目	２～４	後期	2	後期 集中	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本商工会議所の検定試験である販売士３級の本試験合格を目指した講義を集中講義で行う。
特に模擬試験問題を中心とした問題演習を行い、本試験合格に向けた実践力を養成する。

授業の目的・到達目標

日本商工会議所主催の販売士３級検定試験（平成 24 年 2 月 15 日実施）の合格をめざす。

授業内容・授業スケジュール（時間:10:00～15:30）遅刻厳禁

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	小売業の類型①	小売業の類型の重点ポイントを押さえる	
	小売業の類型②	小売業の類型の重点ポイントを押さえる	
	小売業の類型③	模擬試験を実施する	模擬試験問題
2	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ①	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞの重点ポイントを押さえる	
	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ②	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞの重点ポイントを押さえる	
	ﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞ③	模擬試験を実施する	模擬試験問題
3	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ①	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝの重点ポイントを押さえる	
	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ②	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝの重点ポイントを押さえる	
	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ③	模擬試験を実施する	模擬試験問題
4	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ①	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの重点ポイントを押さえる	
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ②	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの重点ポイントを押さえる	
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ③	模擬試験を実施する	模擬試験問題
5	直前対策①	小売業の類型とﾏｰﾁｬﾝﾀﾞｲｼﾞﾝｸﾞのまとめを行う	
	直前対策②	ｽﾄｱｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝとﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞのまとめを行う	
	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

- 原則、販売管理Ⅰを履修した上で本授業を履修すること。
- 販売管理Ⅰを履修していない者は、科目免除制度が適用されないので注意すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　科目ごとの模擬試験（4 科目） □無し	３０　%
レポート	□有り ■無し	%
試　験		５０　%
その他（出席状況等）		２０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕講義の初回に販売するが、販売管理Ⅰを履修した者は購入不要
販売士３級養成講習会テキスト４,２００円が必要。（サブノートは不要）
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	講義中に指示する

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＴ－１	授業科目名	観光学概論	担当教員名	李　貞順

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目 必修科目	１～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「観光学概論」は、他の観光関連科目を学ぶための入門的科目であり、観光に関わる全般的な基礎知識について講義を行う。

授業の目的・到達目標

他の観光関連の科目を学ぶために、観光とは一体なにであり、いかなる構造をもつのか、またどのような事柄とかかわりをもっているのかなど、観光に関する基礎的な知識を総合的に理解する

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	講義の内容や進め方、成績評価などについて	レジュメ配布
２	観光とは	観光の定義と類語	〃
３	観光の構造､構成要素	観光の主体・客体・媒体	〃
４	観光・旅行の歴史	観光の世界史と日本史	〃
５	観光行動と観光心理	観光行動を成立させるもの、観光行動の対象	〃
６	観光の影響と効果	社会・文化・政治・経済などにおよぶ観光の効果	〃
７	観光政策と観光行政	国や地方自治体の行う観光のための政策と行政	〃
８	中間まとめ	小テスト	〃
９	日本の観光の現状	日本のインバウンド・アウトバウンドの現状	〃
１０	観光関連産業①	旅行業の概要	〃
１１	観光関連産業②	宿泊業の概要	〃
１２	観光関連産業③	交通業の概要	〃
１３	観光の専門人材	添乗員と通訳ガイド	〃
１４	観光の今後の課題	観光の変化と今後の観光の姿	〃
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語が多い者は退出していただく。新聞や観光関連の情報誌に日常的にめを通すことが望ましい。毎回の講義でコミュニケーション・ペーパー（出席チェックの代わりとする）を集め、次の回でコメントするなで、双方的な講義をめざしている。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	20　%
レポート	■有り □無し	10　%
試　　験	講義内容について記述式に行う。	50　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加態度を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
使用しない。
〔参考書・その他〕
講義にて適宜指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－２	授業科目名	観光地理学Ⅰ（国内）	担当教員名	数井　敏男

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	必修科目	１～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

観光を学ぶ上でまた観光関連企業に就職する上で重要である国内観光地理の基礎を学習する。

授業の目的・到達目標

・観光地理検４級の合格を目指す、また国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）の地理における合格点をとれる学力。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	講義内容、進め方の説明	
２	観光地理の基礎	都道府県と県庁所在地	教科書、白地図
３	〃	観光地理資源の種類（温泉、国立公園、寺社等）	プリント配布
４	〃	〃	
５	地域別観光資源	北海道の観光地理	
６	地域別観光資源	東北地方の観光地理	
７	地域別観光資源	関東首都圏の観光地理	
８	地域別観光資源	中部地方の観光地理	
９	地域別観光資源	近畿地方の観光地理	
１０	地域別観光資源	中国地方の観光地理	
１１	地域別観光資源	四国地方の観光地理	
１２	地域別観光資源	九州地方の観光地理	
１３	地域別観光資源	沖縄の観光地理	
１４	総合復習	授業の復習、確認問題	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・観光コース１年生の必修授業。他コースの受講希望者は別途開講の観光地理学Ⅰ（国内）を履修のこと。
・１０分以上の遅刻は認めない
・テキストを購入していな者の受講は認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	２０　％
レポート	□有り □無し	％
試　　験		５０　％
その他（出席状況等）	出席と授業態度を重視	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕すぐに役立つベーシック３００＋α㈱ジェイティビー能力開発

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－２	授業科目名	観光地理学Ⅰ(国内)	担当教員名	稲田篤子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	１～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本全国４７都道府県の特徴を自然、地理、風土、歴史等の観点から講義する。

授業の目的・到達目標

国内地理を理解することにより、一般常識及び教養を養える。また、就職試験対策としても活用できる。
国家試験でもある『国内旅行業務取扱管理者』試験に対応し、資格取得を目指すことができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	日本地図の地勢をしる。	プリント
２	北海道	北海道の観光資源を学習する。	プリント
３	東北地方	東北地域の観光資源を学習する。	プリント
４	関東地方	首都圏地域の観光資源を学習する。	プリント
５	中部地方	中部地域の観光資源を学習する。	プリント
６	近畿地方	近畿地域の観光資源を学習する。	プリント
７	中国地方	中国地域の観光資源を学習する。	プリント
８	四国地方	四国地域の観光資源を学習する。	プリント
９	九州・沖縄地方	九州地域と沖縄県の観光資源を学習する。	プリント
１０	世界遺産	国内の世界遺産を学習する。	プリント
１１	自然資源①	温泉、山、河川、渓谷、湖を学習する。	プリント
１２	自然資源②	岬、半島、滝、鍾乳洞、高原を学習する。	プリント
１３	文化資源①	神社仏閣、庭園、祭りを学習する。	プリント
１４	文化資源②	陶磁器、土産、名物料理、美術館を学習する。	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキストを必ず持参して授業に臨むこと。
授業中の私語及び課題をしない者は退出させる場合がある。
出席は厳しく扱うので遅刻しないようにすること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　5回程度 □無し	１５　％
レポート	■有り　5回程度 □無し	１５　％
試　　験		４０　％
その他（出席状況等）	出席率重視（規定の出席率を満たさない場合は単位取得不可）	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕『国内観光地理』トラジャルウエスト社
〔参考書・その他〕『旅に出たくなる地図・国内』帝国書院

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	講義中に指示する。

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－３	授業科目名	観光地理学Ⅱ（海外）	担当教員名	李　貞順

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

世界各国の国柄をはじめとして、観光地や観光資源について講義する。

授業の目的・到達目標

世界各国における観光地や観光資源のありさまを理解すると共に、それらが日本発のツアーにおいていかに取り扱われているのかを学習する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	講義の概要や進め方、成績評価について	レジュメ配布
２	観光地理を学ぶために	観光地理の基礎	〃
３	観光地理を学ぶために	観光地理の基礎	〃
４	エリア別の考察	アジア諸国	〃
５	エリア別の考察	アジア諸国	〃
６	エリア別の考察	アジア諸国	〃
７	エリア別の考察	中近東諸国	〃
８	エリア別の考察	ヨーロッパ諸国	〃
９	エリア別の考察	ヨーロッパ諸国	〃
１０	エリア別の考察	アフリカ諸国	〃
１１	エリア別の考察	南北アメリカ諸国	〃
１２	エリア別の考察	オセアニア諸国	〃
１３	復習	重要項目の再確認	〃
１４	復習	重要項目の再確認	〃
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語が多い者は退出していただく。発表を課することがある。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	15　%
レポート	■有り □無し	15　%
試　　験	内容形式は講義の中で説明	50　%
その他（出席状況等）	出席と参加態度を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
使用しない。
〔参考書・その他〕
講義にて適宜指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－４	授業科目名	旅行会社実務Ⅰ（国内）	担当教員名	数井　敏男

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

旅行業において必要な国内旅行実務を学習する。旅行業カウンター販売・手配業務に役立つ募集型企画旅行、JR 券、航空券、私鉄券、宿泊の販売の知識を中心に勉強する。

授業の目的・到達目標

旅行関連企業に従事して即戦力となるように、国内旅行に関する基本的な実務の基本を幅広く学習し、理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	講義の概要、進め方等の説明	プリント
２	国内旅行の概要	標準旅行業約款の理解、カウンターの仕事	教科書
３	国内旅行の概要	取扱商品、企画旅行と手配旅行等	教科書
４	募集型企画旅行	商品の体系と特徴、パンフレットの種類と見方	教科書
５	募集型企画旅行	フリープランの販売（航空・ＪＲ）	教科書
６	募集型企画旅行	添乗員同行プランの販売、旅程保証	教科書
７	JR 券の販売	運送契約と約款、用語の意義、乗車券の種類	教科書
８	JR 券の販売	乗車券類、運賃・料金計算の原則	教科書
９	JR 券の販売	普通旅客運賃の計算、運賃計算の特例	教科書
１０	JR 券の販売	乗車券変更、取消払戻、紛失、周遊切符等	教科書
１１	航空券の販売	航空会社、空港、予約発売日、予約受付	教科書
１２	航空券の販売	有効期間、運賃の種類、変更取消払戻等	教科書
１３	私鉄券の販売	鉄道、バス、船舶、タクシー・レンタカー	教科書
１４	宿泊	宿泊施設の分類、受付手配、申込金等	教科書
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

「旅行会社実務Ⅱ（海外）」も後期必ず履修すること
・総合・国内旅行業務取扱管理者（国家試験）の取得を目指す人は履修することが望ましい。
・遅刻は１０分以上認めない。
・テキストを持参しない者の受講は認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	内容形式は授業の中で説明	７０　%
その他（出席状況等）	授業の出席回数、受講態度	３０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕国内旅行カウンター販売（ジェイティビー能力開発）

〔参考書・その他〕プリント

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＴ－５	授業科目名	旅行会社実務Ⅱ（海外）	担当教員名	数井敏男

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

旅行会社おいて必要な海外旅行実務を学習する。旅行会社の販売業務において必要不可欠な基礎知識を旅行案内・時差・航空・ホテル・パッケージツアー・渡航手続きといった点を中心に講義する。

授業の目的・到達目標

旅行関連企業に従事したとき即戦力として活躍できるように、海外旅行に関する基本的な実務知識を理解し、習得する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法等の説明	プリント
２	海外旅行業務の概要	販売担当者の役割、旅行業法・旅行業約款	教科書
３	海外旅行業務の概要	業務の全体、販売商品、関係機関	教科書
４	現地事情、時差	現地事情・時差の基本	教科書
５	旅行素材	航空	教科書
６	旅行素材	航空	教科書
７	旅行素材	航空	教科書
８	旅行素材	宿泊	教科書
９	旅行素材	鉄道、船、長距離バス	教科書
１０	パッケージツアー	商品概要	教科書
１１	パッケージツアー	パンフレット	教科書
１２	パッケージツアー	販売の手順	教科書
１３	渡航手続	査証、予防接種、出入国書類	教科書
１４	最終案内	旅行代金・運賃・料金の収受、お渡し書類等	教科書
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・遅刻は原則として認めない。
・前期の旅行会社実務Ⅰ(国内)を必ず履修すること。
・　「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている人は必ず受講すること。
・　テキストを持参しない者の受講は認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		70　%
その他（出席状況等）	出席回数、受講態度	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕海外旅行カウンター販売（ジェイティビー能力開発）

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
１号館　２階　　内線	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＴ－６	授業科目名	観光資格研究Ⅰ/観光資格研究	担当教員名	小笹　誠司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	キャリアデザイン学科

授業のテーマ・概要

旅行業界において唯一の国家資格である「旅行業務取扱管理者」のうち、「国内旅行管理者」資格取得に必要とされる知識・技術を講義します。学習内容は、旅行業界内の規則である「旅行業法」と「約款」科目、さらに、計算問題や各種制度について理解する「国内旅行実務」科目になります。

授業の目的・到達目標

この講義で得る知識・技術を基に「国内旅行業務取扱管理者」試験を受験し、合格するための能力を身に付けます。なお、この講義では課題や宿題等が度々出されますが、国家試験に挑むためには、常に努力し続けるという強い意志が必要となりますので、その点を理解して受講する必要があります。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	国内旅行実務①	旅行管理者試験について、ＪＲ運賃計算	国内観光地理小テスト
２	国内旅行実務②	ＪＲ料金計算（基本的な計算）	国内観光地理小テスト
３	国内旅行実務③	ＪＲ料金計算（特殊な計算）	国内観光地理小テスト
４	国内旅行実務④	ＪＲ団体運賃・料金	国内観光地理小テスト
５	国内旅行実務⑤	国内航空・フェリー・貸切バス運賃、宿泊料金	国内観光地理小テスト
６	旅行業法①	法律の目的・定義、登録制度、営業保証金	国内観光地理小テスト
７	旅行業法②	旅行者との契約、広告、旅程管理、受託販売	国内観光地理小テスト
８	旅行業法③	旅行業協会、禁止行為・罰則	国内観光地理小テスト
９	約款①	旅行業約款・募集型企画旅行①	国内観光地理小テスト
１０	約款②	旅行業約款・募集型企画旅行②	国内観光地理小テスト
１１	約款③	旅行業約款・募集型企画旅行③	国内観光地理小テスト
１２	約款④	旅行業約款・受注型企画旅行・手配旅行・相談	国内観光地理小テスト
１３	約款⑤	国内航空運送約款、貸切バス約款	国内観光地理小テスト
１４	約款⑥	フェリー約款、宿泊約款	国内観光地理小テスト
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・講義への参加だけでなく、自宅学習を積極的に行うなど、常に国家試験合格を強く意識した取り組みができる方のみ受講してください。なお、過去に資格試験を受験した経験を持つ者も受講可能です。
・「国内観光地理」分野は自宅等での自己学習をお願いします（小テストで学習の進捗を確認します。）。
・講義内で私語や居眠りをする者、途中入退室、テキストを持たない者の受講は認めません。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　講義期間中、不定期に実施 □無し	３０　％
レポート	□有り ■無し	０　％
試　　験	講義内容を基に、また、国内旅行管理者試験の出題範囲から試験を行います。	５０　％
その他（出席状況等）	毎回出席を取り、その出席回数を評価の対象とします。	２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕国内旅行管理者試験 合格ハンドブック　２，９４０円
（株）中央書院
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－７	授業科目名	観光資格研究Ⅱ	担当教員名	小笹　誠司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	必修・選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

旅行業界において唯一の国家資格である「旅行業務取扱管理者」のうち、「総合旅行管理者」資格取得に必要とされる知識・技術を講義します。学習内容は、「海外旅行実務」科目内に含まれる「国際航空運賃」「出入国関係法令・手続」「海外実務」の各分野と、一部の「約款」科目になります。

授業の目的・到達目標

この講義で得る知識・技術を基に、次年度の「総合旅行業務取扱管理者」試験を受験し、合格するための能力を身に付けます。なお学習範囲は、試験に必要な全４科目のうち１科目のみの内容ですので、前期「観光資格研究Ⅰ」を受講するなど、残り３科目分の知識・技術を別途習得する必要があります。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	約款	旅行業約款・渡航手続、国際航空運送約款	海外観光地理小テスト
２	国際航空運賃①	国際航空運賃計算の考え方、タリフ	海外観光地理小テスト
３	国際航空運賃②	運賃計算（普通運賃・基本的な計算）①	観光英語小テスト
４	国際航空運賃③	運賃計算（普通運賃・基本的な計算）②	海外観光地理小テスト
５	国際航空運賃④	運賃計算（特別運賃・特殊な計算）①	海外観光地理小テスト
６	国際航空運賃⑤	運賃計算（特別運賃・特殊な計算）②	観光英語小テスト
７	出入国法令・手続①	旅券法令①	海外観光地理小テスト
８	出入国法令・手続②	旅券法令②	海外観光地理小テスト
９	出入国法令・手続③	日本・海外の出入国手続	観光英語小テスト
１０	出入国法令・手続④	旅行者の検疫、動植物の検疫	海外観光地理小テスト
１１	出入国法令・手続⑤	税関手続	海外観光地理小テスト
１２	海外実務①	時差の理解とその計算方法	観光英語小テスト
１３	海外実務②	国際航空時刻表の読み取りと、所要時間計算	海外観光地理小テスト
１４	海外実務③	海外鉄道時刻表の読み取り	海外観光地理小テスト
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・講義への参加だけでなく、自宅学習を積極的に行うなど、常に国家試験合格を強く意識した取り組みができる方のみ受講してください。なお、過去に資格試験を受験した経験を持つ者も受講可能です。
・「海外観光地理」「観光英語」分野は自己学習をお願いします（小テストで学習の進捗を確認します。）。
・講義内での私語や居眠りをする者、途中入退室、テキストを持たない者の受講は認めません。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　講義期間中に、不定期に実施 □無し	３０　％
レポート	□有り ■無し	０　％
試　　験	講義内容を基に、また、総合旅行管理者試験の出題範囲から試験を行います。	５０　％
その他（出席状況等）	毎回出席を取り、その出席回数を評価の対象とします。	２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕総合旅行管理者試験 合格ハンドブック　３，５７０円
（株）中央書院
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－８	授業科目名	旅行業務英語 観光英語	担当教員名	内田　宮子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	３・４ ２～４	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

海外旅行で役立つ英会話および旅行業務に必要な英語を学ぶ。

授業の目的・到達目標

海外旅行で必要な英語のコミュニケーション能力を養う。
観光英語検定（3 級～）の取得ができる能力を養う。総合旅行業務取扱管理者試験の対策（語学）をも行う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の内容・方法について　　レベルチェック	
2	海外旅行英語　①	エアライン	
3	②	ホテル	
4	③	レストラン	
5	④	ショッピング	
6	⑤	交通機関	
7	⑥	観光・旅行	
8	⑦	通信・銀行	
9	⑧	娯楽・レジャー	
１０	⑨	病気・医療	
１１	⑩	旅行関連基本用語	
１２	⑪	英文旅行パンフレット、英文時刻表	
１３	⑫	英文日程表を読む	
１４	⑬	ホテルの手配	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキストと辞書を持参のこと。
原則として観光英検の受験を履修条件とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	30　%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		50　%
その他（出席状況等）		20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
『観光英語検定試験 3 級問題と解説』研究社　2500 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１０

授業科目コード	ＣＴ－９	授業科目名	旅行予約システム実習	担当教員名	疋田 圭子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

旅行会社業務の基本でもあり核となる「営業系予約システム」の操作体験を通じシステムの内容を理解し、また実習を通じて旅行会社の業務内容・知識を習得する。

授業の目的・到達目標

システムを体験し、募集型企画旅行・宿泊・運輸機関の予約・変更・取り消し等の基本的業務ができるようになり、国内・海外の基本的な観光地の知識を修得することを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	授業内容、システムの概要、評価方法等。	簡易マニュアル、パンフレット・プリント
２	募集型企画旅行（国内）	国内旅行商品の仕組み・概要	〃
３	〃	企画宿泊・一般宿泊の照会・予約	〃
４	〃	フリープラン商品の照会・予約（飛行機利用）	〃
５	〃	フリープラン商品の照会・予約　（ＪＲ利用）	〃
６	募集型企画商品（海外）	海外旅行商品の仕組み・概要	〃
７	〃	海外旅行商品の照会・予約	〃
８	〃	海外旅行商品の変更・取消	〃
９	募集型企画旅行（国内）	フリープラン商品・一般宿泊の変更・取消	〃
１０	〃	エスコート・フルセット型商品の予約・取消	〃
１１	〃	テーマパーク入場券の予約・変更・取消	〃
１２	〃	国内・海外地理の復習	〃
１３	〃	国内システムの復習と演習	〃
１４	募集型企画商品（海外）	海外システムの復習と演習	〃
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・システム実習なので遅刻は基本的に認めない。
・旅行会社のパンフレットを収集し、記載内容をよく見ておくこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	１５週目に期末試験を実施（実習テスト）	50　%
その他（出席状況等）	出席回数、受講態度	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕簡易マニュアル、旅行パンフレット、プリント（配布）
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：２０１０

授業科目コード	ＣＴ－11	授業科目名	旅行産業論 旅行・交通産業論	担当教員名	数井敏男

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本経済の活性化の柱となるべき観光産業。その中心的役割を担う旅行業。その歴史・現状
課題・将来を中心に総合的に学習する。

授業の目的・到達目標

観光庁予算も大幅に増え、日本経済の活性化という点において、旅行産業は重要視され注目を浴びている。講義を通じ旅行業の現状・問題点等を理解把握し、旅行産業の発展のために役立つ基礎的知識を培う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	講義の概要、勧め方、評価方法等の説明	プリント
２	旅行産業	旅の歴史と旅行業の変遷①	プリント
３	旅行産業	旅の歴史と旅行業の変遷②	プリント
４	旅行産業	旅行業の役割、機能	プリント
５	旅行産業	旅行業の経営と特色	プリント
６	旅行産業	旅行業法	プリント
７	旅行産業	旅行業約款、関係する主な法律	プリント
８	旅行産業	旅行営業　商品づくりからみた部門別業務	プリント
９	旅行産業	旅行営業　販売形態からみた営業内容①	プリント
１０	旅行産業	旅行営業　販売形態からみた営業内容②	プリント
１１	旅行産業	旅行営業　業種別にみた営業内容①	プリント
１２	旅行産業	旅行営業　業種別にみた営業内容②	プリント
１３	旅行産業	旅行業のマーケティング	プリント
１４	旅行産業	旅行業の課題と展望、	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・１０分以上の遅刻は認めない。
・毎回プリントを配布し、重要ポイントを各自記入し講義プリントを完成させる。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	試験を実施	７０　%
その他（出席状況等）	出席回数、受講態度	３０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕なし

〔参考書・その他〕プリント配布

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＴ－12	授業科目名	ツーリズム・ホスピタリティ論 ホスピタリティ論	担当教員名	片山 昌子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

今、社会で重要性が高まっている「ホスピタリティ」とは何か、そして、なぜホスピタリティが求められているのかを理解する。併せて、サービスとホスピタリティの概念の相関関係を理解したうえで、サービス社会からホスピタリティ社会に移行している現状を認識する。

授業の目的・到達目標

１．ホスピタリティの概念とホスピタリティ・インダストリー（産業界）の概容と動向を概観し実践されているホスピタリティを考察する。
２．ホスピタリティのあり方や、あるべきホスピタリティを考え、社会で働くための意識を高める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	ホスピタリティとは	ガイダンス、DVD 教材視聴	配布資料、DVD
2	今なぜホスピタリティが注目されているのか	講義の概容	教科書､配布資料
3	ホスピタリティとサービスの概念の違い	概念の違いを理解する	教科書､配布資料
4	ホスピタリティと日本の伝統文化・慣習 (1)	神事、冠婚葬祭、日本料理	教科書､配布資料
5	ホスピタリティと日本の伝統文化・慣習 (2)	茶道、武家礼法、江戸しぐさ	教科書､配布資料
6	世界のホスピタリティ文化（西洋・東洋）	発展史から学ぶ	教科書､配布資料
7	ホスピタリティ・インダストリーとホスピタリティ (1)	宿泊業､運輸ﾊﾟｯｾﾝｼﾞｬｰ業	教科書､配布資料
8	ホスピタリティ・インダストリーとホスピタリティ (2)	旅行業、観光業	教科書､配布資料
9	ホスピタリティ・インダストリーとホスピタリティ (3)	外食業､余暇ﾚｼﾞｬｰ産業､ﾃｰﾏﾊﾟｰｸ	教科書､配布資料
１０	ブライダル業とホスピタリティ (1)	日本の慣習、外国の慣習	教科書､配布資料
１１	ブライダル業とホスピタリティ (2)	業界の最新動向	教科書､配布資料
１２	ホスピタリティインダストリーの進展と動向	業界研究、求められる人材	教科書､配布資料
１３	プロトコール(国際儀礼)&外国人客接遇	プロトコールの基本知識	教科書、DVD
１４	ホスピタリティとコミュニケーション	ケーススタディ	教科書､配布資料
１５	まとめ	授業総括	

履修上の注意・関連科目等

１．シラバスに沿って教科書を熟読(予習)して毎回受講してください〔教科書・ノート持参〕
２．社会人となった際に不可欠な基本的マナーを具備する観点から積極的な受講態度で学んでください

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　授業の終了時に毎回ミニテスト実施（ノート持ち込み許可） □無し	30 %
レポート	■有り　最終回に実施（課題は事前に通知する：未提出者は失格） □無し	30 %
試　験		%
その他(出席状況等)	授業への積極的な参加態度を重視する	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　「ホスピタリティのすすめ その理論と実践」（梅田出版）¥1,800（割引価格で提供）
〔参考書・その他〕　授業時に適宜紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－13	授業科目名	ホテル・レストラン学	担当教員名	片山　昌子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

１．宿の時代から現代までの日本と西洋の宿泊産業の発展史と歩みをふまえたうえで、日本資本、外国資本の企業がグローバル規模で変動している宿泊業の現状と最新動向を認識し、それに対応できる実務の基礎知識を学ぶ。

２．訪日外国人(インバウンド)の誘致、国内観光誘致政策により活性化と拡大化が見込まれている宿泊産業の業界研究を視野に入れて学ぶ。

授業の目的・到達目標

１．宿泊産業の発展史をふまえたうえで宿泊業、ホテル業の業界研究を視野に入れて動向を学ぶ。

２．宿泊業、ホテル業の現場で対応できる基礎知識を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	宿泊業の基礎知識（1）	宿泊業とは、ホテルとは	DVD, PowerPoint
2	宿泊業の基礎知識（2）	ホテルの経営形態と業態分類	PowerPoint、資料
3	宿泊業の基礎知識（3）	発展史と歩み ①	PowerPoint、資料
4	宿泊業の基礎知識（4）	発展史と歩み ②	PowerPoint、資料
5	ホテルのオペレーション（1）	宿泊部門	PowerPoint、資料
6	ホテルのオペレーション（2）	料飲部門	DVD, PowerPoint
7	ホテルのオペレーション（3）	宴会部門	PowerPoint、資料
8	ホテルのオペレーション（4）	ウエディング部門	PowerPoint、資料
9	ホテルのオペレーション（5）	セールス&マーケティング部門、管理部門	PowerPoint、資料
１０	ホテル・マネジメントの基本(1)	日系ホテルと外資系ホテルの違い	PowerPoint、資料
１１	ホテル・マネジメントの基本(2)	レベニューマネジメント	PowerPoint、資料
１２	ホテル・マネジメントの基本(3)	リスクマネジメント､ｸﾚｰﾑ､ｺﾝﾌﾟﾚｲﾝ対応	PowerPoint、資料
１３	宿泊産業・ホテル業界の動向	業界研究、求められる人材	PowerPoint、資料
１４	プロトコール&外国人客接遇	プロトコール(国際儀礼)の基本知識	DVD, PowerPoint
１５	まとめ	授業総括	

履修上の注意・関連科目等

社会人となった際に不可欠な基本的マナーを具備する観点から、次の受講ルールを順守して積極的な受講態度で学んでください。①携帯電話電源オフ　②水・お茶以外の飲食禁止　③私語の多い学生は退室させる場合もある　④授業開始 10 分以降の遅刻は正当な理由がある場合を除いて認めない

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　授業の終了時に毎回ミニテスト実施（ノート持ち込み許可） □無し	30　%
レポート	■有り　　最終回に実施（課題は事前に通知する：未提出者は失格） □無し	30　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業への積極的な参加態度を重視する	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　　毎回授業時に資料を配布する

〔参考書・その他〕「新ホテル総論」(プラザ出版・日本ホテル教育センター)、「ホテル概論」(JHRS)、「週刊 HOTERES」（オータパブリケイションズ）等、授業時に適宜紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－18	授業科目名	航空ビジネス論	担当教員名	坂下正憲

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

航空産業に興味を持つ受講生に航空業界で行われている輸送サービス全体について最新の情報をまじえて分りやすく講義する。

授業の目的・到達目標

航空産業の実態と個別の業務を理解できるとともに、航空会社の成り立ちや社会貢献も含めどのような活動をしているのかを学習してこれからの航空輸送事業を展望できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業概要、到達点、授業方法、評価等を説明。	
2	業務の多様性､専門性	航空機運航に求められる多様性、専門性の講義。	プリント配布
3	情報・予約部門	旅客が航空券を予約購入するまでの説明。	プリント配布
4	営業・販売	商品企画、販売方法を解説。	プリント配布
5	空港①	空港の役割、重要性を課題も含めて講義。	プリント配布
6	空港②	旅客取扱業務について解説する。	プリント配布
7	空港③	飛行機が飛び立つまでの流れについて説明する。	プリント配布
8	空港④	整備作業などメンテナンスについて説明する。	プリント配布
9	運航①	飛行機はどうして飛ぶのか分りやすく説明。	プリント配布
１０	運航②	運航乗務員の業務、訓練について説明。	プリント配布
１１	機内サービス	客室乗務員の業務、訓練について説明。	プリント配布
１２	航空貨物	航空貨物の取り扱いについて解説。	プリント配布
１３	航空輸送以外の業務	間接的に航空産業を支える関連事業を解説。	プリント配布
１４	安全と環境	安全と環境について説明し、将来展望を論じる。	プリント配布
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	プリント配布

履修上の注意・関連科目等

航空産業は日々変動している。航空ならびに空港に関する新聞記事・ＴＶニュースなど、普段から最新の情報に関心を払い積極的に授業に参加して欲しい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	内容・形式等については、授業の中で説明する。	５０　%
その他（出席状況等）	出席と授業参画態度を重視。	５０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

特に指定しない。

〔参考書・その他〕

「航空産業入門」（ANA 総合研究所）東洋経済新報社、日本の空を問う（伊藤元重）日本経済新聞社

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－19	授業科目名	地域観光論	担当教員名	小川 雅司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択必修科目	１～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

観光形態が変わりつつある現在、地域が主体となって、既存の地域資源を活用した旅行商品が強く求められています。その一方で、従来型の地域振興・まちづくりにも限界がみられるため、観光を活用した地域振興・まちづくりが様々な地域で進められている。そこで本講義では、豊富な事例研究をもとに、観光と地域の関係性について講義します。

授業の目的・到達目標

地域と観光の関係性について学び、地域資源を活用した観光政策に関する知識と考え方を修得することを目的とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	はじめに	講義内容と進め方	講義プリント
２	地域観光論の基礎①	観光振興への取り組み	講義プリント
３	地域観光論の基礎②	観光と地域 ── 地域観光の必要性	講義プリント
４	地域観光論の基礎③	地域資源の把握と商品企画①	講義プリント
５	地域観光論の基礎④	地域資源の把握と商品企画②	講義プリント
６	地域観光論の基礎⑤	地域観光の事業主体	講義プリント
７	事例研究①	「ドラマ・ロケ」による地域観光	講義プリント
８	事例研究②	「食」による地域観光	講義プリント
９	事例研究③	「自然環境」による地域観光	講義プリント
１０	事例研究④	「産業」による地域観光	講義プリント
１１	事例研究⑤	「文化」による地域観光	講義プリント
１２	持続可能な地域観光①	映画『ＵＤＯＮ』から学ぶ①	ＤＶＤ
１３	持続可能な地域観光②	映画『ＵＤＯＮ』から学ぶ②	ＤＶＤ
１４	持続可能な地域観光③	観光と地域の持続可能な発展	講義プリント
１５	おわりに	全体の理解度の確認と授業総括	講義プリント

履修上の注意・関連科目等

・講義に出席していなければできないような問題を試験に出題します。
・講義中に頻繁に私語する者には退室を求め、当該科目の単位を認めません。
・観光集客論と観光政策論が関連科目です。同時に履修することで理解がより深まると思います。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　４回の確認テストを実施します □無し	４０　％
レポート	□有り ■無し	０　％
試　　験	講義内容から試験（論述形式）をします	５０　％
その他（出席状況等）	出欠を確認します	１０　％

教科書・参考書及び辞典等

教科書は使用しません
参考書は講義中に指示しますので、できるだけ多く読んでください

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＴ－20	授業科目名	観光経済論	担当教員名	小川 雅司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 観光分野	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

観光と経済の関わりは今日、ますます重要になりつつあります。そこで本講義では、観光の需要分析や経済効果の理論など、経済学の立場から複雑な観光現象を分析する際に必要となる基礎的な経済理論について講義します。

授業の目的・到達目標

観光経済学の基礎的理論を学び、観光を経済学的に捉えるための知識と考え方を修得することを目的とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	はじめに	講義内容と進め方	講義プリント
2	観光の需要①	観光需要の動向	講義プリント
3	観光の需要②	観光需要の要因①	講義プリント
4	観光の需要③	観光需要の要因②	講義プリント
5	観光の市場①	観光の需要・供給と価格①	講義プリント
6	観光の市場②	観光の需要・供給と価格②	講義プリント
7	観光の市場③	実証分析 ── ホテルの価格形成要因	講義プリント
8	観光と経済①	観光産業と経済効果	講義プリント
9	観光と経済②	経済効果のマクロ経済理論①	講義プリント
１０	観光と経済③	経済効果のマクロ経済理論②	講義プリント
１１	観光資源の価値と評価①	旅行費用法・ヘドニック価格法	講義プリント
１２	観光資源の価値と評価②	ＣＶＭ（仮想市場評価法）	講義プリント
１３	観光地の成長と衰退①	Butler のライフ・サイクル・モデル	講義プリント
１４	観光地の成長と衰退②	Wolfe のライフ・サイクル・モデル	講義プリント
１５	おわりに	全体の理解度の確認と授業総括	講義プリント

履修上の注意・関連科目等

・講義に出席していなければできないような問題を試験に出題します。
・講義中に頻繁に私語する者には退室を求め、当該科目の単位を認めません。
・観光学概論と現代経済学が関連科目です。同時に履修することで理解がより深まると思います。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　４回の確認テストを実施します □無し	４０　％
レポート	□有り ■無し	０　％
試　　験	講義内容から試験（論述形式）をします	５０　％
その他（出席状況等）	出欠を確認します	１０　％

教科書・参考書及び辞典等

教科書は使用しません
参考書は講義中に指示しますので、できるだけ多く読んでください

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＳ－１	授業科目名	スポーツマネジメント論	担当教員名	棚山　研

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 スポーツライフ分野	選択科目	１～２	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

スポーツは人類が持つ文化の中でも固有のルール、国際性、娯楽性、健全性など、他の文化にはない特徴をもっている。普通、マネジメントとは企業的な組織運営のことを指すが、スポーツのマネジメントといった場合、その文化的特徴や社会的要請に応じて、多面的なマネジメントを総合的に行うことが求められる。その多面性をスポーツクラブを中心に、入門的に学ぶのが本講義でのテーマである。

授業の目的・到達目標

「スポーツをマネジメントする、その固有性についてスポーツクラブを中心に学んでいく」

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	授業ガイダンス		
２	スポーツをマネジメントするとは？	「する」スポーツと「見る」スポーツ	毎回、プリントを配布する。
３	プロスポーツのマネジメント①	プロスポーツとは何か	
４	プロスポーツのマネジメント②	様々な経営スタイル、地域との関係	
５	スポーツの国際化	プロスポーツのマネジメントとの関連	
６	日本のスポーツ振興施策①	行政、日本体育協会、ＪＯＡなどの役割	
７	日本のスポーツ振興施策②	「スポーツ振興基本計画」などについて	
８	スポーツクラブのマネジメント①	スポーツ事業の計画(ビジョン・ミッション)	ﾃｷｽﾄ p12~
９	スポーツクラブのマネジメント②	スポーツ組織の運営（スタッフや資金）	ﾃｷｽﾄ p16~
１０	スポーツクラブのマネジメント③	活動プログラムの策定､クラブハウスの確保	ﾃｷｽﾄ p42~
１１	スポーツクラブのマネジメント④	スポーツ事業の評価方法	ﾃｷｽﾄ p45~
１２	スポーツクラブのマネジメント⑤	クラブマネジャーに求められる能力	ﾃｷｽﾄ p18~
１３	スポーツクラブのマネジメント⑥	クラブマネジャーの役割①ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・組織	ﾃｷｽﾄ p21~
１４	スポーツクラブのマネジメント⑦	クラブマネジャーの役割②ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ・財務	ﾃｷｽﾄ p22~
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

前期開講の「スポーツ文化論」を踏まえ、また後半は㈶日本体育協会「公認アシスタントマネジャー」資格取得のための内容でもある。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
定期試験		100%
その他（出席状況等）	出席回数が全回数の 2/3 に満たない受講生には追加出題を課する	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

㈶日本体育協会『公認アシスタントマネジャー養成テキスト』　主に後半部分で使用する。

※市販されていないので、大学で必ず購入すること。

（なお、2 年生以上では「地域とスポーツ」でも使用する）

〔参考書・その他〕

適宜指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度　２０１１

授業科目コード	ＣＳ－２	授業科目名	スポーツ文化論	担当教員名	棚山　研

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門分野 スポーツライフ分野	選択科目	１～２	前期	2	時間割 参照	現代社会学科 スポーツライフコース

授業のテーマ・概要

オリンピックにも見られるように、スポーツは言葉や個別文化を超えて通じ合うことのできる固有の文化性を持っている。その固有性を支えているものが「ルール」であるが、本講義ではルールの成立過程をはじめとして、文化としてのスポーツの諸相を受講生のスポーツ経験を交えて学習する。なお、「座学としてのスポーツ論入門」という位置づけも持っている。

授業の目的・到達目標

スポーツの概念、歴史、さらにはルールやスポーツが帯びる文化的諸相を学ぶことによって、スポーツの文化的固有性について理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス		
２	スポーツとは	スポーツの概念、文化的特性とルール	毎回プリント配布
３	スポーツ種目の概観	種目から見るスポーツ界	
４	スポーツの歴史①	古代スポーツと近代スポーツ	
５	スポーツの歴史②	イギリスにおける近代スポーツの成立	
６	スポーツの歴史③	「体育」とスポーツ	
７	スポーツの歴史④	プロとアマチュア	
８	スポーツ文化の諸相①	自分自身のスポーツ経験を振り返る	
９	スポーツ文化の諸相②	ルールから見るスポーツ、個人種目と集団種目	
１０	スポーツ文化の諸相③	「精神主義」について	
１１	スポーツ文化の諸相④	「（日本的）集団主義」との結合について	
１２	スポーツ文化の諸相⑤	ギャンブルとスポーツ	
１３	スポーツ文化の諸相⑥	スポーツマンシップとシチズンシップ	
１４	人権としてのスポーツ	スポーツ・フォー・オールの思想	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

授業の流れとしては、「プリント音読」→「前回感想文紹介」→「解説」→「次回プリント感想文記入」で行う予定なので、毎回感想文を提出してもらい、出席チェックとする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		100　%
その他（出席状況等）	出席回数が全回数の 2/3 に満たない受講生には追加出題を課する	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書・その他〕

玉木正之『スポーツとは何か』講談社現代新書、その他適宜紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＳ－３	授業科目名	専門スポーツⅠ	担当教員名	竹之内雅史

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門分野 スポーツライフ分野	選択科目	１～２	前期	２	時間割 参照	現代社会学科 スポーツライフコース

授業のテーマ・概要

スポーツの楽しさ、素晴らしい事を教え、基本基礎の重要性を理解させる
実践等、各種プログラムを能力と共に行う

授業の目的・到達目標

前半はA.（アグレシブ）、F（ファンタメンタル）T.（テクニック）実質基本、基礎の
習得と応用を付けさせる事と実技を３回に１度は行いたい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	基本の徹底　習得　　講義	
２	スポーツ全般	Ａ　アグレッシブ	挑戦する気迫、やる気
３	スポーツ全般	Ｆ　ファンタメンタル	丁寧に扱うボール
４	スポーツ全般	Ｔ　テクニック	それぞれのセールを作る
５	硬式野球	基本の予習　復習　１	
６	硬式野球	基本の予習　復習　２	
７	硬式野球	基本の予習　復習　３	
８	硬式野球	基本の予習　復習　４　実技	ブランド、体育館
９	硬式野球	基本の予習　復習　５	
１０	スポーツ全般	好調を維持する方法（体調、食、睡眠）	
１１	スポーツ全般	勝負所での対応の考え方	
１２	スポーツ全般	自分自身の甘さを知る（長所、短所、経験）	
１３	スポーツ全般	人を引きつける魅力を養う	
１４	スポーツ全般	人間としてバランス感覚を持たせる	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

遅刻、睡眠、おしゃべり厳禁

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	☑有り □無し	30　%
試　　験		%
その他（出席状況等）		%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＳ－２	授業科目名	専門スポーツⅡ	担当教員名	竹之内雅史

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門分野 スポーツライフ分野	選択科目	１～２	前期	２	時間割 参照	現代社会学科 スポーツライフコース

授業のテーマ・概要

スポーツ技術はもちろんの事、内面の強さの引出し方(メンタルトレーニング)
(基礎知識)

授業の目的・到達目標

メンタルトレーニング　変化への挑戦　　教育と調教
人間とその変わりうるもの

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	スポーツ全般	考えるベースボールの進歩を自覚させる	
２	メンタル面の充実	目標を達成させる為に行う	
３	技術より心身をいかに強くするか スポーツ全てにおいて	勝てない理由	
４		24 時間のトレーニングタイム	
５		休み時間にも出来る	
６		メンタルトレーニングの大事さ　理由と理解	
７		あなたのやる気はどんなタイプ	
８		大切な最初の感動	
９	メンタル面をどのように実戦に生かすか スポーツ全般	心理的スキルの活用	グランド体育館
１０		今日からすぐ出来る	グランド体育館
１１		スランプ脱出のカギ	グランド体育館
１２		試合の為の心理的準備	
１３		技術３割メンタル７割	
１４		実戦におけるプラス発想	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	☑有り □無し	40　%
試　　験		%
その他（出席状況等）		%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＳ－５	授業科目名	スポーツ社会学	担当教員名	棚山　研

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門分野 スポーツライフ分野	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	現代社会学科 スポーツライフコース

授業のテーマ・概要

「スポーツは社会を映す鏡」であることを、様々な側面から学ぶ。

スポーツはその「ルール」さえ理解されれば国境や文化、人種の壁を越えて交流しあうことのできる人類固有の文化である。また、「フェアプレー」や「スポーツマンシップ」の考え方にも見られるように、スポーツは世俗から離れた「純粋」なものであるという見方も強い。それゆえ、スポーツを手がかりにして社会を見つめると様々なものが見えてくる。それらを様々な側面から学習する。

授業の目的・到達目標

スポーツ手がかりにして社会を分析的に見る、その見方を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料(プリント等)
1	授業ガイダンス		毎回プリントを配布する。 必要に応じて、ビデオ上映する。
2	スポーツと社会・序説	社会の中のスポーツ	
3	スポーツと暴力	近代市民社会の成立とスポーツ	
4	スポーツと余暇	労働者・若者の余暇管理手段としてのスポーツ	
5	スポーツと集団性	対抗試合の発達と集団の結束の高まり	
6	スポーツと政治性	スポーツが顕わす階級性、スポーツの政治効果	
7	スポーツとメディア	メディアイベントとしてのスポーツ	
8	スポーツと「カネ」	アマチュアリズムから、巨万の富の「手段」へ	
9	スポーツと国際化	国単位の対抗から、人材のグローバリゼーションへ	
１０	スポーツと科学技術	ドーピングをめぐって	
１１	障害者とスポーツ	スポーツの「ユニヴァーサル・デザイン」は？	
１２	中高年者とスポーツ	「人生最大の余暇時間」におけるスポーツ	
１３	女性とスポーツ	スポーツ(文化)のジェンダー性をめぐって	
１４	スポーツと社会の未来	スポーツ純粋論が与える影響	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

「スポーツ文化論」、「スポーツマネジメント論」（共に 1 年次配当科目）の続編の性格が強い科目であり、それらを履修していることを前提として、授業を進める。

また、プリントは適切な文章を印刷したものを使用する予定なので、音読や感想文の提出を求めることがある。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
定期試験		100%
その他（出席状況等）	出席回数が全回数の 2/3 に満たない受講生には追加出題を課する	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

使用しない

〔参考書・その他〕

適宜紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＳ－６	授業科目名	スポーツ心理学	担当教員名	朝西知徳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 スポーツライフ分野	必修・選択科目	1~2 年	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「わかりやすいスポーツ心理学」

競技成績を高めるための心のトレーニングと、敗戦による心の傷を癒すための心のトレーニングについて紹介する。

授業の目的・到達目標

心のトレーニングによって、スポーツ選手のパフォーマンスがどのように変化していくのかを知り、さらには、スポーツから得られる精神的価値についての理解を深める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	メンタル・トレーニング(MT)	基礎知識と構成要素について	蜥蜴、小旗
2	心理的競技能力	精神力の数値化について	心理的競技能力診断検査
3	コーチングの心理	チャンピオンの条件について	リラックス
4	生涯スポーツ	スポーツをする意義について	全盲の大学野球監督
5	スポーツと倫理	スポーツマンシップについて	がんばれ! ベアーズ
6	心と体の関係	心理的限界と生理的限界について	ロッキー
7	スポーツにおける動機づけ	ギリシャ神話について	大リーグの MT
8	スポーツと心	キャッチボールの意味について	フィールド・オブ・ドリームス
9	リラクゼーション	自律訓練法､漸進筋弛緩法について	下記の参考書
１０	イメージ・トレーニング	甲子園に至るまでの MT について	下記の参考書
１１	イメージ・リハーサル	脳の働きについて	長嶋茂雄の MT
１２	スポーツと愛	チームワークについて	プリティ・リーグ
１３	指導と体罰と暴力	現場における事例について	スクール☆ウォーズ
１４	ライフスキル	ライフプログラム(LP)について	運動部員に対する LP
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

授業のルールを守らない場合(遅刻、居眠り、携帯電話の使用、私語、飲食)には厳しい指導を行う。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	0　%
レポート	□有り ■無し	0　%
試　　験	授業内容の確認	50　%
その他（出席状況等）	出席状況と授業に対する熱意	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

朝西知徳『甲子園に至るまでの心の研究』新風舎(2002)

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＳ－７	授業科目名	余暇社会学	担当教員名	棚山　研

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 スポーツライフ分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「人間と社会にとっての余暇の意義について―労働との関係において」

余暇の意義について、主に「労働のための休息時間」、および「日本（人）における余暇の位置づけ」について講義する。

授業の目的・到達目標

第１に日本における余暇の問題は労働時間問題であるということを理解してもらう。次に日本における余暇活動の実態、レジャー産業や余暇政策の実態を知ってもらう。また、新しい余暇活動の傾向やヨーロッパの「余暇社会」の実情を通じて、人間と社会にとっての余暇の意義を理解してもらう。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	授業ガイダンス	「カネを取るか、ヒマをとるか？？」	プリント
２	余暇の歴史について	昔の人はどれくらい働いていたか	プリント
３	労働時間と余暇①	休息としての余暇	プリント
４	労働時間と余暇②	現代日本の労働時間	プリント
５	労働時間と余暇③	日本の労働時間制度	プリント
６	労働時間と余暇④	労働時間の国際比較（人生時間と余暇時間）	プリント
７	労働時間と余暇⑤	なぜ死ぬまで働くのか？	プリント・ビデオ
８	余暇活動の現状①	全体的傾向（活動実態・意識）	プリント
９	余暇活動の現状②	レジャー費用と余暇市場	プリント
１０	余暇活動の現状③	レジャー産業から見た日本人の余暇	プリント
１１	余暇活動の現状④	「リゾートブーム」と「グリーンツーリズム」	プリント・ビデオ
１２	「余暇社会」にむけて①	新しい余暇活動のトレンド	プリント
１３	「余暇社会」にむけて②	「社会性余暇」や「スローな公共事業」	プリント・ビデオ
１４	「余暇社会」にむけて③	西欧の「余暇社会」とワークシェアリング	プリント・ビデオ
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

学生との双方向型授業にするために、感想文や簡単な出題を基本的に毎回行う。出席チェックの代わりとする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	出席回数８回以下の受講生には、追加出題を行う。（「受験無資格」のかたちをとらない）	100%
その他（出席状況等）		%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない

〔参考書・その他〕適宜紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＳ－８	授業科目名	健康スポーツ論	担当教員名	朝西知徳

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 スポーツライフ分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「スポーツ傷害について」

スポーツ指導者を目指そうとする学生に対して、スポーツ傷害に関する基礎的な知識を与える。

授業の目的・到達目標

スポーツ傷害に関する知識を得るだけではなく、指導哲学・指導理念を正しく確立し、現場で応用するための準備を図る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	スポーツと健康	総論について	参考書全般
２	スポーツ活動中に多いケガ	スポーツ傷害クリニックのデータから	参考書 pp13～20
３	スポーツ活動中に多い病気	スポーツ傷害クリニックのデータから	参考書 pp13～20
４	救急処置	RICE について	プリント配布
５	発育発達期の身体的特徴	行動体力、防衛体力について	プリント配布
６	発育発達期の心理的特徴	行動体力、防衛体力について	プリント配布
７	発育発達期に多いケガや病気	学校保健統計調査から	プリント配布
８	発育発達期のプログラム	学校保健統計調査から推察する	プリント配布
９	スポーツ傷害の発生	メカニズムについて	プリント配布
１０	スポーツのケガ	外傷と傷害の違いについて	プリント配布
１１	スポーツ傷害の処置方法	アスレチックリハビリテーションについて	プリント配布
１２	スポーツと栄養(前)	ケガや病気を防ぐための食事について	プリント配布
１３	スポーツと栄養(後)	競技へ復帰するための食事について	プリント配布
１４	スポーツリハビリテーション	基本的順序について	プリント配布
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

授業のルールを守らない場合(遅刻、居眠り、携帯電話の使用、私語、飲食)には厳しい指導を行う。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	0　%
レポート	□有り ■無し	0　%
試　　験	授業内容の確認	50　%
その他（出席状況等）	出席状況と授業に対する熱意	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

シルヴィア・ラックマン(石河利寛 訳)『知っておきたい スポーツ傷害の医学』ベースボール・マガジン社

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＳ－９	授業科目名	地域とスポーツ	担当教員名	棚山　研

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 スポーツライフ分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

「地域スポーツクラブの設立意義、運営方法や課題を知ることを通じて、地域社会の課題も学ぶ」

スポーツライフコースは文字通り「スポーツのあるくらし」と社会づくりに貢献していくという点で、地域スポーツクラブについての学習はその中心である。現在、文部科学省と㈶日本体育協会が設立を推進している総合型地域スポーツクラブをそのあり方について幅広く学んでいく。

授業の目的・到達目標

地域スポーツクラブのマネジメントの基礎的知識を習得するとともに、そのマネジメントに必要な地域社会の基本的状況について学習する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料(プリント等)
１	授業ガイダンス		
２	地域社会の現状	スポーツが求められる地域社会的背景	テキストＰ10～
３	地域のスポーツ振興方策	行政や「スポーツ振興基本計画」との関わり	テキストＰ11～
４	地域スポーツクラブとは①	ドイツの事例を通じて、クラブ像について	テキストＰ4～
５	地域スポーツクラブとは②	その機能と役割、課題	テキストＰ12～
６	地域スポーツクラブとは③	日本における立ち上げ方式の分類	テキストＰ14～
７	総合型地域スポーツクラブ①	総合型クラブのマネジメントと人材	テキストＰ16～
８	総合型地域スポーツクラブ②	マネジメント指導者の養成目的と役割	テキストＰ15～
９	クラブのつくり方①	設立準備	テキストＰ30～
１０	クラブのつくり方②	自主的な運営の仕組み	テキストＰ44～
１１	クラブのつくり方③	ＮＰＯ法人とは。その取得の意義と方法	テキストＰ32～
１２	総合型地域スポーツクラブ③	具体的事例について	テキストＰ35～
１３	広域スポーツセンターについて	その機能と役割、個別クラブとの関係	プリント
１４	地域スポーツを支える仕組み	行政、体協などと個別クラブとの関係	テキストＰ13～
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

㈶日本体育協会「公認アシスタントマネジャー」資格取得のための科目でもある。なお、この資格取得のためには「スポーツマネジメント論」（1 年生配当科目）の受講も必要であり、「スポーツマネジメント論」の履修が済んでいることを前提に授業を行う。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
定期試験		100%
その他（出席状況等）	出席回数が全回数の 2/3 に満たない受講生には追加出題を課する	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

㈶日本体育協会『公認アシスタントマネジャー養成テキスト』

※市販されていないので、大学で必ず購入すること。

（なお、１年生時の「スポーツマネジメント論」で購入した場合は新規購入しなくて良い。）

〔参考書・その他〕

適宜指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	４９－１０	授業科目名	レクリエーション論	担当教員名	今西 香寿

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 スポーツライフ分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	産業社会学部 現代社会学部

授業のテーマ・概要

レクリエーションの理念と実践について学ぶ

授業の目的・到達目標

レクリエーションとは何か？ということを理解し、主体的にレクリエーション活動を拡げていくノウハウを身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	授業の進め方・資格取得の説明	
２	レクリエーションの意義	講義・グループワーク	
３	レクリエーション運動を支える制度	講義	
４	レク・インストラクターの役割	講義・グループワーク	
５	ライフスタイルとレクリエーション	講義・グループワーク	
６	高齢化社会の課題とレクリエーション	講義・グループワーク	
７	少子化の課題とレクリエーション	講義・グループワーク	
８	地域とレクリエーション	講義・グループワーク	
９	レクリエーション事業とは	講義・グループワーク	
１０	レクリエーション事業の展開方法	講義・グループワーク	
１１	事業計画Ⅰ　レクリエーションプログラムの計画・実施	グループワーク・実戦	
１２	レクリエーションプログラムの評価・記録	グループワーク	
１３	事業計画Ⅱ　市民を対象とした事業のつくり方	グループワーク	
１４	レクリエーション活動の安全管理	講義	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

全員参加型の授業を中心に進めます。積極的・自発的な態度で授業に臨んで下さい。
資格取得単位（レクリエーション・インストラクター）該当授業のため、全日程出席を原則とします。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑無し	%
レポート	☑有り	２０　%
試　　験	筆記テスト	７０　%
その他（出席状況等）	出席状況・授業態度など総合評価	１０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕・レクリエーション支援の基礎　　（財）日本レクリエーション協会
〔参考書・その他〕・講義関連資料コピー配布

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：２０１０

授業科目コード	Ｃ Ｉ － ２	授業科目名	欧米文化Ⅱ	担当教員名	内田宮子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

さまざまな観点からアメリカという国を理解する。

授業の目的・到達目標

アメリカについて自分の意見を持てるようになること。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	はじめに	アメリカのイメージ　（プラスとマイナス）	プリントを配布
２	アメリカとは	基本的なデータ	同上
３	アメリカンドリーム	映画“The Pursuit of Happyness”	同上
４	アメリカンドリーム	映画“The Pursuit of Happyness”　他	同上
５	アメリカについて①	地理	同上
６	アメリカについて②	歴史	同上
７	ゲストと学ぶ	ゲストスピーカー（アメリカ人）を招き意見交換	同上
８	アメリカについて③	文化（ショービジネス・スポーツ等）	同上
９	アメリカについて④	食文化　映画”Super Size Me”	同上
１０	アメリカについて⑤	食文化　映画”Super Size Me”　他	同上
１１	アメリカ人について	マナー・行事・学校等　（日本人と比較）	同上
１２	アメリカの問題点	移民問題・人種差別　“Uncle Tom’s Cabin”	同上
１３		Martin Luther King,Malcolm X　映画“Malcolm X”	同上
１４	現代アメリカの問題点	貧困・サブプライムローン・戦争・9.11 等	同上
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

授業内容を変更することがあります。
遅刻は認めない。私語・携帯電話の使用は認めない。
6 回欠席すると受験資格を失います。欠席すると平常点が減ります。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		５０　%
その他（出席状況等）		５０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２００９

授業科目コード	Ｃ Ｉ － ３	授業科目名	欧米文化Ⅲ	担当教員名	杉原 充志

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

この授業では、欧米文化研究の一環として、南半球のオーストラリアを取り上げる。とくに今年度は、東南アジアにもっとも近い北部準州（ノーザンテリトリー）の州都「ダーウィン(Darwin)」という都市に焦点を当て、「アジアの中のオーストラリア」という視点からさまざまな問題を検討していく。また、隣国ニュージーランドとの比較もしばしばおこなう。

授業の目的・到達目標

イギリスの伝統を受け継ぐ白人中心の移民国家として出発しながら、今日では先住民をはじめ、さまざまな民族・宗教・文化的背景を有する人々で成り立つ「多民族・多文化社会」の姿（そして苦悩）を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	はじめに	受講のルール、授業の進め方、評価の仕方について	
2	オーストラリア入門	オーストラリア理解のための「1，2，3，4，5」	ビデオ、パワーポイント
3	なぜ「ダーウィン」なのか？	21 世紀の縮図	ビデオ、パワーポイント
4	オーストラリアの歴史と中国	白人の入植から連邦の形成へ	ビデオ、パワーポイント
5	オーストラリアの歴史と日本	白豪主義から多文化主義へ	ビデオ、パワーポイント
6	多民族・多文化社会の現状（1）	先住民アボリジニ問題①	ビデオ、パワーポイント
7	多民族・多文化社会の現状（2）	先住民アボリジニ問題②	ビデオ、パワーポイント
8	多民族・多文化社会の現状（3）	アジア系移民論争①	ビデオ、パワーポイント
9	多民族・多文化社会の現状（4）	アジア系移民論争②	ビデオ、パワーポイント
１０	多民族・多文化社会の現状（5）	異文化摩擦の現状と課題①	資料プリント
１１	多民族・多文化社会の現状（6）	異文化摩擦の現状と課題②	資料プリント
１２	アジアの中の豪州（1）	経済活動を中心に	資料プリント
１３	アジアの中の豪州（2）	安全保障を中心に	資料プリント
１４	アジアの中の豪州（3）	ニュージーランドとの比較	資料プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

基本的には私の「語り」で授業を進めるが、現地で入手したビデオ等も活用し、リアリティを持たせたい。また、本学の国際交流プログラムの一つである豪州（サザンクロス大学）への短期留学参加希望者に役立つ情報も提供するつもりである。なお、遅刻や授業中の私語・携帯電話の問題については、きびしく対処するので覚悟するように。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	資料の持ち込みは一切不可で実施。	100　%
その他（出席状況等）	座席指定はしないが、「気合い席」制度を採用予定。	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

とくに指定しない。必要に応じて、資料プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

竹田いさみ・森健・永野隆行編『オーストラリア入門〔第 2 版〕』東京大学出版会、2007 年。

藤川隆男編『オーストラリアの歴史』有斐閣、2004 年。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ Ｉ － ４	授業科目名	アジア文化Ｉ	担当教員名	大原　良通

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	１～４	後期	２	夏期集中	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

中国の文化や歴史の基本を理解する。特に、シルク、茶など世界に大きな影響を与えた産品の歴史的役割と儒教や仏教というアジア全体に影響を与えた思想について講義する。

授業の目的・到達目標

中国の文化が世界に与えた影響や、儒教の基本的理念を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	中国	漢の概念、漢民族、漢字。	
２	歴史１	歴史概論１　秦、漢	
３	歴史２	歴史概論２　唐	
４	歴史３	歴史概論３　清	
５	シルク１	シルクの発見と歴史	
６	シルク２	シルロードと東西文化の交流。	
７	儒教１	男尊女卑	
８	儒教２	南北朝	
９	儒教３	女帝、則天武后	
１０	日本との交流１	遣唐使	
１１	日本との交流２	中国からの渡来品	
１２	茶１	茶の発見	
１３	茶２	『茶経』	
１４	民族衣装	衣装から見た多民族社会	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

学生の興味の如何によって授業内容を変えることもある。

授業中は授業に専念するのは当たり前であり、そうでないものは小テスト、レポート、試験で得た点数よりそっと減点する。したがって、必要と感じない限りは授業中に叱責することはないので、授業態度には十分気をつけること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　授業態度、積極性理解度などを考慮して、適宜おこなう。 □無し	20　%
レポート	■有り　授業の進行状況を考えなら、必要ならおこなう。 □無し	20　%
試　　験		60　%
その他（出席状況等）		%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

『中国儒教社会に挑んだ女性たち』李貞徳著、大修館書店、1600 円+税。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	Ｃ Ｉ－５	授業科目名	アジア文化Ⅱ／コリア研究	担当教員名	金居 修省

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	１～４	前期集中	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

近くて近い国、韓国。よく似た文化を持つ日本と韓国であるが、細かなところでは違いも目立つ。日韓の文化比較という観点から韓国文化に対する理解をすすめる

授業の目的・到達目標

韓国へ行ってみたい気持ちになる。海外へ出かけることに対する心理的ハードルを下げる

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業概要説明	概要説明、レポート指示、自己(教師・学生)紹介	PPT・動画資料準備
2	歴史	日本と韓国の歴史（古代史）	同上
3	歴史	日本と韓国の歴史（近代史）	同上
4	１日の整理・深化	今日の授業についての討論	
5	気質	日本人の気質・韓国人の気質	同上
6	言葉	日本人の言葉・韓国人の言葉	同上
7	食生活	日本人の食生活・韓国人の食生活	同上
8	１日の整理・深化	今日の授業についての討論	
9	居住文化	日本人の住まい・韓国人の住まい	同上
１０	風俗風習	日本人の風俗・韓国人の風俗	同上
１１	社会生活	日本人の社会生活・韓国人の社会生活	同上
１２	１日の整理・深化	今日の授業についての討論	
１３	芸能娯楽	日本人の芸能娯楽・韓国人の芸能娯楽	同上
１４	政治経済	日本人の政治経済・韓国人の政治経済	同上
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

集中講義で行われるので十分に時間を取ることができないだろうが、
可能なかぎり自主的に調べ、深く理解することがようにしてください。
それと、TA プログラムで是非、韓国に来て下さい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0　%
レポート	☑有り　　最初の授業時間に提示 □無し	30　%
試　　験		30　%
その他（出席状況等）		40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　　知れば知るほど理解が深まる「日本人と韓国人」なるほど事典
—衣食住、言葉のニュアンスから人づきあいの習慣まで—

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	[redacted]

作成年度：2011

授業科目コード	CI－７	授業科目名	日本文化Ⅰ/ 日本文化特講Ⅰ	担当教員名	藤川純子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本を代表する文化の一つとして必ずあげられる浮世絵をテーマとして取り上げる。浮世絵の制作方法や描かれているものへの講義を通して、江戸時代の文化や生活を理解する。

授業の目的・到達目標

浮世絵は、日本人の誰もが一度は見たことがある、あるいはイメージすることができるものでしょう。しかし、その歴史や制作ならびに現在の状況に関しては知られていないことも多い。

そこで、本講義では浮世絵への理解を通して、江戸時代の人々が持っていた感覚や習慣を知り、世界の中で浮世絵がどのようにとらえられているかを考えることを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	はじめに	授業の進め方と講義の概要	
２	浮世絵の制作方法	浮世絵の制作方法と現代における制作状況	
３	浮世絵の歴史	浮世絵の概説	
４	美人画①	美人画とは	
５	美人画②	美人画の歴史	
６	役者絵①	役者絵とは	
７	役者絵②	江戸と上方	
８	浮世絵の文様①	文様の種類	
９	浮世絵の文様②	歌舞伎と文様	
１０	風景画	風景画とは	
１１	浮世絵の保存	浮世絵の保存と展示について	
１２	浮世絵の流出①	海外における浮世絵収蔵について	
１３	浮世絵の流出②	ボストン美術館のコレクションについて	
１４	浮世絵の流出③	V&A 美術館のコレクションについて	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

各回に、講義への理解度と出席状況の確認のため、どのような感想を持ったかについて小レポートを提出すること。

試験（記述式）を実施する。その際は、講義中に作成した自筆ノートのみ持ち込み可。

質問などの積極的な参加は歓迎するが、私語等による妨害は慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り　　各回授業終了時に提出。内容は履修上の注意を参照のこと。 □無し	４０　%
試　　験	試験（記述式）を実施。 内容については実施前の回にて発表する。	６０　%
その他（出席状況等）		%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	CI－８	授業科目名	日本文化Ⅱ	担当教員名	恵阪　悟

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	２～４	前期	２	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

日本が世界に誇れる文化の一つとして、古典芸能がある。その中で、特に「能楽」を中心に、古典芸能の歴史や内容を概説する。

授業の目的・到達目標

「能楽」に関する基本的な事柄を伝えることにより、多くの芸能について各々が何かを考えるきっかけを提供する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	授業の進め方	講義の概要説明、およびアンケート。	
２	序説①	能の基礎知識概説。	
３	序説②	能の演技要素 ―謡と型― について。	ビデオ利用
４	能の周辺①	歌舞伎の発生史。	
５	能の周辺②	能と歌舞伎の演技比較。	ビデオ利用
６	能の作品概説①	能の曲目（脇能・修羅物）をめぐって。	ビデオ利用
７	能の作品概説②	能の曲目（鬘物・雑能・切能）をめぐって	ビデオ利用
８	能の作品鑑賞①	能の見方について。	
９	能の作品鑑賞②	取り上げた作品の解説と鑑賞（前半）。	ビデオ利用
１０	能の作品鑑賞③	取り上げた作品の解説と鑑賞（後半）。	ビデオ利用
１１	能の歴史①	能大成以前の歴史的展開	
１２	能の歴史②	能の芸術的発展とその立役者。	
１３	能の歴史③	桃山期から江戸時代の能とその鑑賞者。	
１４	能の概説③	仮面について。	ビデオ利用
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

授業中に適宜プリント等を配布する。また、スケジュール以外にも適宜ビデオ等を利用する場合がある。

授業中の私語・飲食・携帯電話の使用は厳禁。受講態度が悪い場合は出席を停止する。

途中入室、途中退室は、特別な事情がない限り慎むこと。無断で退出した時は出席と認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	詳細は授業中に指示する。	60　%
その他（出席状況等）	出席状況、授業中に求める感想文の内容評価などを加味する。	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2011

授業科目コード	ＣＩ－11	授業科目名	Communicative English I	担当教員名	穴吹将彦

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

まずは、英語を楽しみましょう。そして、その先に見えてくる英語の世界を楽しみましょう。
人生を楽しむためのツールとして、またスキル・アップの手段としての英語を身につけるために、
いろいろな英語に触れ、知識を増やし、「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」をバランスよく学びましょう。

授業の目的・到達目標

今までの英語学習に引き続き、TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験に対応できる英語の運用能力を定着させることが目的。一人一人が個人目標を定め、その目標を達成できるよう努力することが目標。
具体的には、６月、１０月、１月に行われる英検にチャレンジし、それぞれの級に合格すること、また TOEIC、TOEFL にも挑戦し、少しずつでもスコアを伸ばして行くことが目標。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の進め方、単位認定などについて説明	
2	レベル・チェック①	リスニング・テスト	
3	レベル・チェック②	筆記テスト	
4	英検一次対策①	リスニング問題	
5	英検一次対策②	１．語彙・イディオム	
6	英検一次対策③	２．ならべかえ英作文	
7	英検一次対策④	３．読解問題（空所補充）	
8	英検一次対策⑤	４．読解問題（内容一致）	
9	中間考査		
１０	英検一次・解説①	リスニング問題	
１１	英検一次・解説②	筆記問題	
１２	英検二次対策①	概要説明・模擬面接	
１３	英検二次対策②	模擬面接（個人）	
１４	英検対策全般	個々の弱点の発見および補強、次回への対策	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

遅刻・欠席は厳禁。小テストを毎回行うため、授業の予習・復習を怠らないこと。
英検は各年度の第１回（６月実施）と第３回（１月実施）を必ず受験することとする。
また、英検を受験しないものには単位を与えない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	２５　％
レポート	□有り □無し	％
試　　験	2 回の考査を行う。	５０　％
その他（出席状況等）	出席、授業中の参加態度および課題の提出を重視する。	２５　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリント教材を使用する予定。
〔参考書・その他〕第１回目の授業で指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：２０１１

授業科目コード	Ｃ Ｉ －12	授業科目名	Communicative English Ⅱ	担当教員名	穴吹将彦

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	１～４	前期	２	夏期集中	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

まずは、英語を楽しみましょう。そして、その先に見えてくる英語の世界を楽しみましょう。
人生を楽しむためのツールとして、またスキル・アップの手段としての英語を身につけるために、
いろいろな英語に触れ、知識を増やし、「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」をバランスよく学びましょう。

授業の目的・到達目標

前期の授業に引き続き、TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験に対応できる英語の運用能力を
定着させることが目的。一人一人が目標を定め、その目標を達成できるよう努力することが目標。
具体的には、６月、１０月、１月に行われる英検にチャレンジし、それぞれ各級に合格すること、
そしてTOEIC、TOEFLにも挑戦し、少しずつでもスコアを伸ばして行くことが目標。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	授業の進め方、単位認定などについて説明	
２	レベル・チェック①	リスニング・テスト	
３	レベル・チェック②	筆記テスト	
４	英検一次解説①	リスニング問題	
５	英検一次解説②	筆記問題	
６	英検二次対策①	概要説明・模擬面接	
７	英検二次対策②	模擬面接（個人）	
８	中間考査		
９	ＴＯＥＩＣ対策①	リスニング問題	
１０	ＴＯＥＩＣ対策②	筆記問題（語彙・文法）	
１１	ＴＯＥＩＣ対策③	筆記問題（読解）	
１２	資格試験対策①	模擬試験	
１３	資格試験対策②	模擬試験	
１４	資格試験対策全般	個々の弱点の発見および補強、傾向と対策	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

遅刻・欠席は厳禁。小テストを毎回行うため、授業の予習・復習を怠らないこと。
英検は各年度の第１回（６月実施）と第３回（１月実施）を必ず受験することとする。
また、英検を受験しないものには単位を与えない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	２５　％
レポート	□有り □無し	％
試　　験	中間考査と学期末考査を行う。	５０　％
その他（出席状況等）	出席、授業中の参加態度および課題の提出を重視する。	２５　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリント教材を使用する予定。
〔参考書・その他〕第１回目の授業で指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＩ－１３	授業科目名	Communicative English Ⅲ	担当教員名	内田　宮子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

まずは、英語を楽しみましょう。そして、その先に見えてくる英語の世界を楽しみましょう。
人生を楽しむためのツールとして、またスキル・アップの手段としての英語を身につけるために、
いろいろな英語に触れ、知識を増やし、「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」をバランスよく学びましょう。

授業の目的・到達目標

今までの英語学習に引き続き、TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験に対応できる英語の運用能力を定着させることが目的。一人一人が個人目標を定め、その目標を達成できるよう努力することが目標。
具体的には、６月、１０月、１月に行われる英検にチャレンジし、それぞれの級に合格すること、また TOEIC、TOEFL にも挑戦し、少しずつでもスコアを伸ばして行くことが目標。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の進め方、単位認定などについて説明	
2	レベル・チェック①	英文読解問題テスト	
3	レベル・チェック②	英作文問題テスト	
4	英検一次対策①	読解問題（E-mail 問題）	
5	英検一次対策②	読解問題（会話文補充問題）	
6	英検一次対策③	ならべかえ英作文	
7	英検一次対策④	読解問題（空所補充）	
8	英検一次対策⑤	読解問題（内容一致）	
9	中間考査		
１０	英検一次・解説①	読解問題（空所補充）	
１１	英検一次・解説②	読解問題（内容一致）	
１２	英検二次対策①	概要説明・模擬面接	
１３	英検二次対策②	模擬面接（個人）	
１４	英検対策全般	個々の弱点の発見および補強、次回への対策	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

遅刻・欠席は厳禁。小テストを毎回行うため、授業の予習・復習を怠らないこと。
英検は各年度の第１回（６月実施）と第３回（１月実施）を必ず受験することとする。
また、英検を受験しないものには単位を与えない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	２５　％
レポート	□有り □無し	％
試　　験	2 回の考査を行う。	５０　％
その他（出席状況等）	出席、授業中の参加態度および課題の提出を重視する。	２５　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリント教材を使用する予定。
〔参考書・その他〕第１回目の授業で指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＣＩ－１４	授業科目名	Communicative English Ⅳ	担当教員名	内田　宮子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 国際文化・英語分野	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

まずは、英語を楽しみましょう。そして、その先に見えてくる英語の世界を楽しみましょう。
人生を楽しむためのツールとして、またスキル・アップの手段としての英語を身につけるために、
いろいろな英語に触れ、知識を増やし、「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」をバランスよく学びましょう。

授業の目的・到達目標

前期の授業に引き続き、TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験に対応できる英語の運用能力を
定着させることが目的。一人一人が目標を定め、その目標を達成できるよう努力することが目標。
具体的には、６月、１０月、１月に行われる英検にチャレンジし、それぞれ各級に合格すること、
そしてTOEIC、TOEFLにも挑戦し、少しずつでもスコアを伸ばして行くことが目標。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の進め方、単位認定などについて説明	
2	レベル・チェック①	英文読解問題テスト	
3	レベル・チェック②	英作文問題テスト	
4	英検一次解説①	読解問題（空所補充）	
5	英検一次解説②	読解問題（内容一致）	
6	英検二次対策①	概要説明・模擬面接	
7	英検二次対策②	模擬面接（個人）	
8	中間考査		
9	ＴＯＥＩＣ対策①	読解問題（広告文など）	
１０	ＴＯＥＩＣ対策②	読解問題（ビジネスレターなど）	
１１	ＴＯＥＩＣ対策③	読解問題（取扱説明書など）	
１２	資格試験対策①	模擬試験	
１３	資格試験対策②	模擬試験	
１４	資格試験対策全般	個々の弱点の発見および補強、傾向と対策	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

遅刻・欠席は厳禁。小テストを毎回行うため、授業の予習・復習を怠らないこと。
英検は各年度の第１回（６月実施）と第３回（１月実施）を必ず受験することとする。
また、英検を受験しないものには単位を与えない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	２５　％
レポート	□有り □無し	％
試　　験	2回考査を行う。	５０　％
その他（出席状況等）	出席、授業中の参加態度および課題の提出を重視する。	２５　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリント教材を使用する予定。
〔参考書・その他〕第１回目の授業で指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：２０１１

授業科目コード	ＩＳ－１	授業科目名	インターンシップⅢ(長期)	担当教員名	専門ゼミ担当教員

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門科目 企業演習	選択科目	２～４	前・後期	１６	集中	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 現代社会学科

授業のテーマ・概要

短期の「インターンシップⅠ」や「インターンシップⅡ」とは異なり、専門ゼミの教員の指導の下に、教員の専門分野の企業等を中心にして、セメスター単位（４～６ヶ月）の長期の職場実習を行う。

授業の目的・到達目標

長期にわたる職場実習は、単に職業意識を高めるだけでなく、これまでの学習で得た教養、知識や専門研究テーマを実際の職場体験を通じて実践する能力を身につけることが目的である。また、専門ゼミナールの教員からの指導に基づき、自らの研究テーマに合った深い研究も行うことができる。

授業内容・授業スケジュール

①専門ゼミ担当教員の指導による実習先企業・団体の選択と派遣先への交渉
②インターンシップに対するオリエンテーション(担当教員､ｷｬﾘｱｾﾝﾀｰ ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟｾｸｼｮﾝ)
③事前教育（ビジネスマナー、実習先の研究、実習計画の作成、その他の必要書類の作成）
④就業体験（企業等でのセメスター単位の職場実習、専門ゼミ担当教員による実習中の定期指導、帰校日（※）における専門ゼミへの参加など、実習中も専門ゼミの履修を並行して行う）
⑤事後教育（実習レポート＝報告書の作成、科目履修登録、担当教員による単位認定評価）
※前期に実習参加する場合は、上記①、②、③は前年度において実施され、後期での実習参加の場合は、前期において行うこととなる。

★これまでの「長期インターンシップ」への参加実績

（１）三村ゼミ・経営マーケティング　３年男子・１４年度前期５ヶ月間・アパレルメーカーでの営業実習
（２）〃・〃　３年男子・〃・〃
（３）〃・〃　３年女子・１６年度後期４ヶ月間・大阪国際ビジネス振興協会で事業補助
（４）〃・〃　３年女子・１６年度後期５ヶ月間・島精機製作所で翻訳業務
（５）〃・〃　３年男子・１７年度後期５ヶ月間・サクラクレパスで貿易事務
（６）〃・〃　３年女子・１７年度後期４ヶ月間・昭和貿易で輸出業務
（７）〃・〃　３年女子・１７年度後期４ヶ月間・大阪国際ビジネス振興協会で事業補助
（８）〃・〃　３年女子・１８年度後期４ヶ月間・大阪国際ビジネス振興協会で事業補助
（９）〃・〃　４年男子・２０年度前期４ヶ月間・ｾｶﾞﾐﾒﾃﾞｨｸｽで販売とｻｰﾋﾞｽ接遇実習
（10）〃・〃　３年男子・２０年度後期５ヶ月間・ｾｶﾞﾐﾒﾃﾞｨｸｽで販売とｻｰﾋﾞｽ接遇実習
（11）棚山ゼミ・地域デザイン　３年男子・１４年度後期５ヶ月間・田尻町役場で記念事業の推進
（12）杉原ゼミ・〃　３年男子・〃・大阪府国際交流財団で事業企画
（13）〃・〃　３年男子・１５年度後期４ヶ月間・森山ひろゆき事務所で政務実習
（14）岡本ゼミ・観光レジャー　３年男子・１４年度後期５ヶ月間・近畿日本ツーリストで営業実習
（15）〃・〃　３年男子・１４年度後期６ヶ月間・大阪観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ協会で開発推進業務
（16）〃・〃　３年女子・１６年度前期５ヶ月間・大阪観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ協会で開発推進業務
（17）中原ゼミ・〃　３年女子・１４年度後期６ヶ月間・大阪観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ協会で情報企画業務
（18）〃・〃　３年女子・１６年度後期５ヶ月間・ホテル阪神でサービス接遇実習
（19）〃・〃　３年女子・〃・〃

履修上の注意・関連科目等

この科目の目的と内容を十分に理解し、半年間にわたって大学を離れて企業等で実習することに対する確かな認識と意欲が要求される。また、専門ゼミ担当教員やキャリアセンター（インターンシップセクション）とのコミュニケーションも重要である。この長期インターンシップに参加するためには「インターンシップⅠ（２週間)」や「インターンシップⅡ（４週間)」の短期インターンシップ体験が必要。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	☑有り	３０　％
実習評価	本人の実習記録日誌及び指導者によるコメント、実習先の評価表に基づく。	５０　％
その他（出席状況等）	上記①から⑤までの全てのプログラムを終えた学生に対して評価を行う。すなわち、事前教育や事後教育に不参加で、職場実習だけに参加してもこの科目に対する評価は与えない。	２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特になし
〔参考書・その他〕　事前に実習予定の企業や業界を研究するための参考資料を学習する必要があり、参加学生には専門ゼミナール担当教員より事前に指示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：２００９